

『大切な命を守る防災マップとハザードマップ!』 ～ 地を知り 危険を知り 我を知り 区民の命を守る～



令和7年12月7日
御殿場市役所危機管理課補佐監

御殿場市HP
○ 防災出前講座資料
自主防災会関連
令和7年度地域防災訓練
(六日市場区出前講座)

主 要 略 歴

御殿場市役所 危機管理補佐監

杉 本 嘉 章(すぎもと よしあき) (S36(1961). 5. 12生 64才)

◆ プロフィール

静岡県御殿場市出身(神山小・富士岡中・神奈川県立湘南高校・日本大学(文理学部))

昭和52年 陸上自衛隊少年工科学校入校(神奈川・横須賀市)

平成 5年 第6戦車大隊第2中隊長(宮城) 平成7年 (株)アサヒビール研修

平成14年 第12偵察隊長(群馬) ※新潟県中越地震(H16)

平成17年 イラク復興業務支援隊作戦幕僚(サマワ) 平成18年 統合幕僚学校学生(東京)

平成19年 新潟県中越沖地震現地調整連絡幹部(新潟) ※新潟県中越沖地震(H19)

平成20年 第71戦車連隊長(北海道)※ 有珠山地域担当(H20)、北海道胆振東部地震(H30)

平成22年 自衛隊高知地方協力本部長(高知) ※東日本大震災(H23)

平成24年 陸上自衛隊幹部学校主任教官(東京)

平成25年 東部方面総監部総務部長(東京)※伊豆大島豪雨災害(H25)、御嶽山噴火(H26)

平成27年 西部方面混成団長 兼 相浦駐屯地司令(長崎・佐世保市) ※熊本地震(H28)

平成29年 陸将補 早期退職

平成29年4月 御殿場市役所入庁 危機管理課長 平成30年 危機管理監(部長級)

令和 4年4月 現 職 ※令和元年台風19号(R1)、熱海市伊豆山土石流災害(R3)

平成17年 東京都北区立岩淵小学校PTA会長 平成19年東京都立飛鳥高校PTA副会長

平成24年 高知県観光特使 平成29年 長崎県観光特使 御殿場市国際交流協会会員

令和 元年 市民大学・シニア大学・御殿場看護学校講師(災害・国際看護学)、各種セミナー講師

令和 6年 台湾全国防災教育従事者ステップアップ対策国際実務研修講師



9年間の勤務で学んだこと、色々ありますが



漫才は面白いが

防災は面白くない！

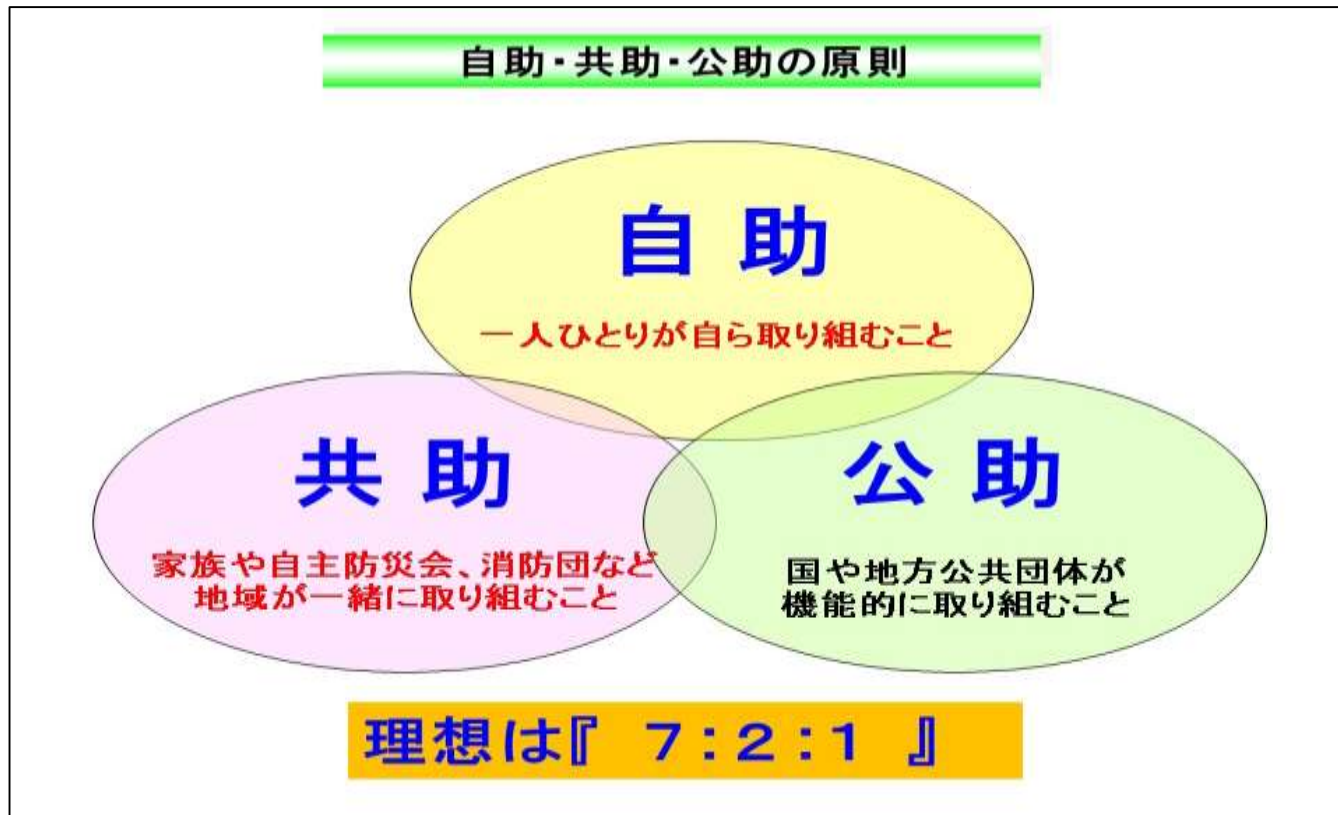
∴ 楽しい防災講話を心掛けよう！
難しい ⇒ 優しく ⇒ 面白く

防災は皆、重要だと言うけれど

実は、あまり興味はない！ 😞

地域防災力とは

- ① 住民一人ひとりが自ら行う防災活動たる「自助」
 - ② 自主防災組織や消防団等による「共助」
 - ③ 国・地方自治体、その他の公共機関による「公助」
- を含めた「総合的な地域の防災体制・能力」





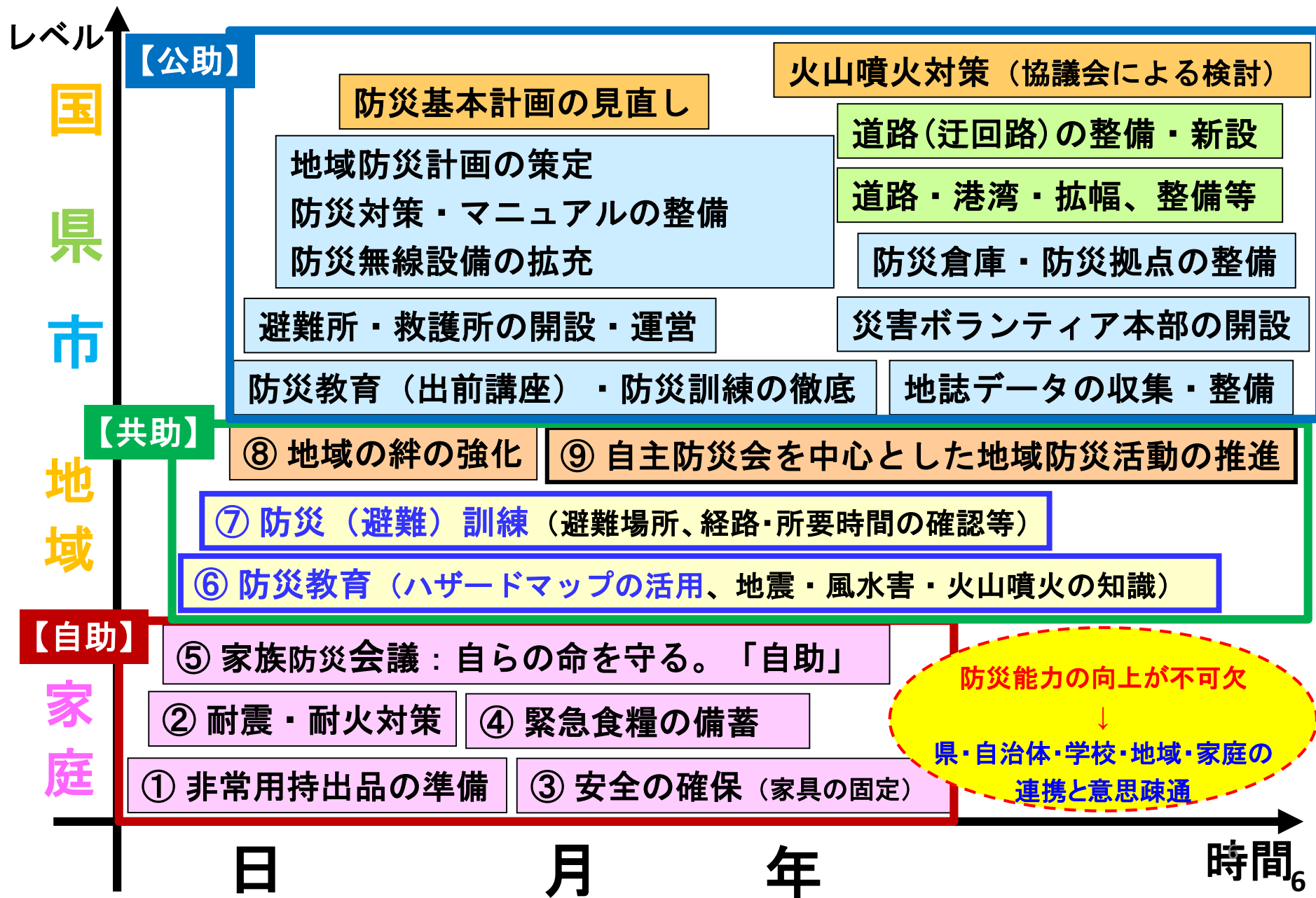
FIRE SECTION 2-2
PROFESSIONAL SPIRIT

天は自ら助くる者を助く！

**自らの命は自ら守る。
自らの地域は皆で守る。**

御殿場市消防団第二分団第二部

自助・共助・公助の総合的な地域防災力



説明項目

I 御殿場市の災害「特性と対応」

- ◆ 災害上の特性

- ◆ 災害への対応

II 防災マップとハザードマップの活用

『災害とは、**暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑り、その他の異常な自然現象**又は**大規模な火事、若しくは爆発**その他その及ぼす被害の程度において、これらに類する政令で定める**原因**（放射性物質の大量放出、多数の者の避難を伴う船舶沈没、その他の大規模な事故とする。）により生ずる**被害**をいう。』



環太平洋火山帯・台風の通り道



大地震と富士山噴火

ユーラシアプレート

北米プレート

2007: 中越沖地震

2024: 能登半島地震

2004: 中越地震

2011

1707: 宝永噴火

太平洋プレート

1703: 元禄相模地震

1605

1884

1707: 宝永南海地震

1605

相模トラフ沖地震

日本人は古の遠い昔から未来永劫
地震と運命を共にする民族である...

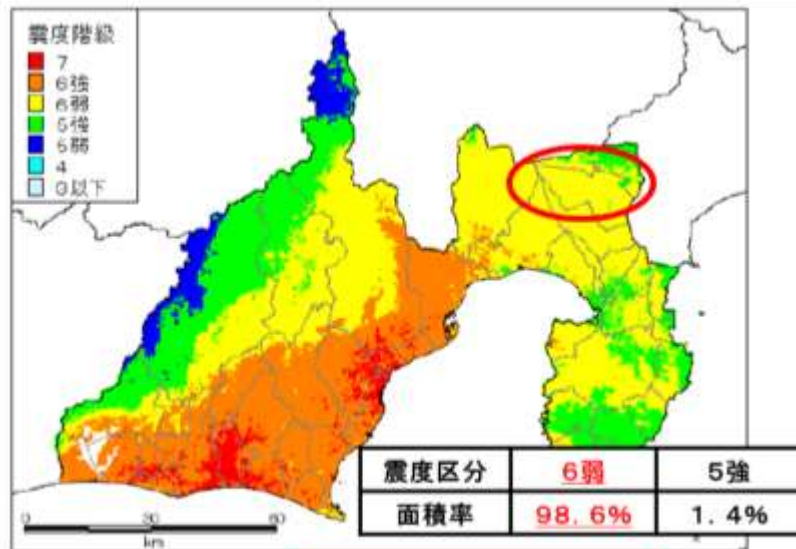
社会学者 清水幾太郎



・南海

Q1: 南海トラフ・相模トラフ どちらが被害が大きい？

南海トラフ地震 被害想定



図Ⅱ-1.11(1) 震度分布図(東海・東南海・南海地震)

(注)内閣府(2012)の南海トラフ巨大地震の基本ケースの強震断層モデルを用いて計算したもの。

◎ 建物被害(御殿場市)

区分	全壊	半壊	火災
棟数(棟)	約200	約1,300	約10

建物棟数...30,008棟

御殿場市内の5%の建物に被害

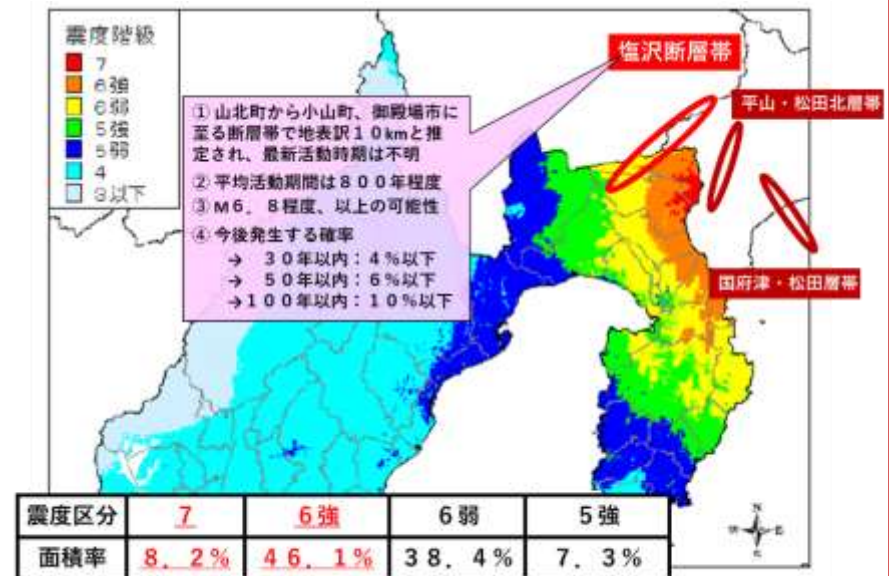
避難者数:約5,400人(避難所:約2,700人、避難所外:約2,700人)

◎ 人的被害(御殿場市)

区分	死者	重傷者	軽傷者
建物倒壊	—	約30	約200
(家具等の転倒)		(約10)	(約40)

1,000人中の約3人が重軽傷者

相模トラフ地震 被害想定



図Ⅱ-1.15(1) 震度分布図(大正型関東地震)

◎ 建物被害(御殿場市)

レベル1(冬・夕)

区分	全壊	半壊	火災
棟数(棟)	約4,440	約5,200	約700

建物棟数...30,008棟

御殿場市内の約35%の建物に被害

避難者数:約23,800人(避難所:約11,900、避難所外:約11,900人)

◎ 人的被害(御殿場市)

レベル1(冬・深夜又は早朝)

区分	死者	重傷者	軽傷者
建物倒壊	約40	約500	約1,300
(屋内収容物移動等)	(約20)	(約70)	(約300)
火災			約10

100人中の約2人が死者・重軽傷者

Q2: 御殿場市は災害が多い？少ない？

(台風：6件 集中豪雨：1件 低気圧：1件 大雪：1件 地震：3件)

(昭和41年9月24日～令和元年10月12日)

御殿場市の災害上の特性

①南西(7時)からの風雨に弱い地形

②箱根外輪山西麓の急峻地形

③分水嶺(小高い尾根)

災害から大切な命を守る！

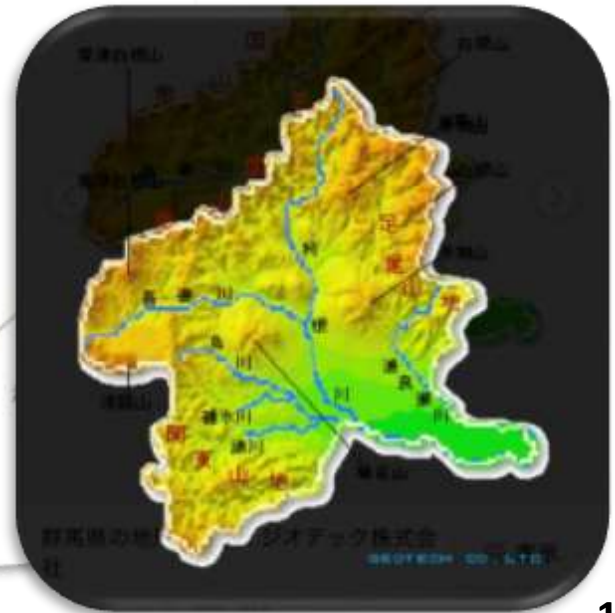
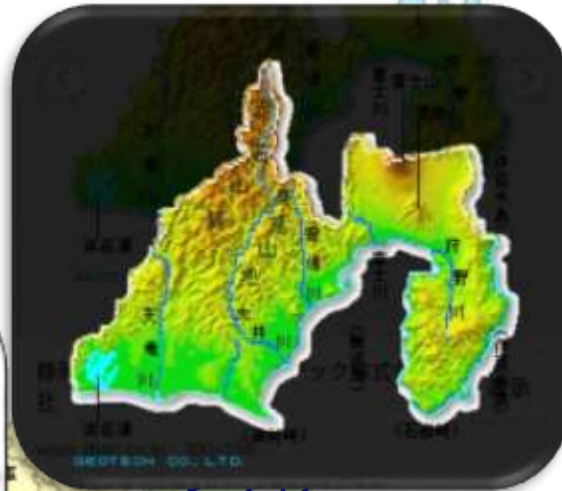
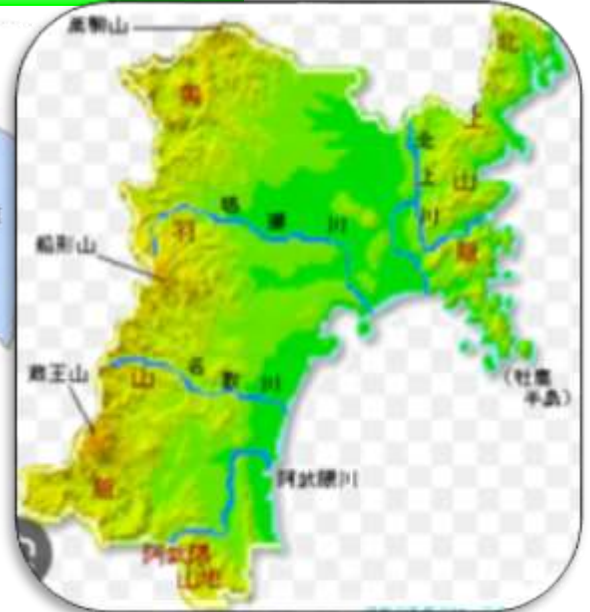
地を知り、危険を知り、我を知る
～ 静的地形 ・ 動的気象 ～

地形 × 気象 = 災害

災害 × 人 ・ 物 × 時間 × 運 = 被害

⇒ いかに被害を防止・軽減するか
事前研究 ・ 情報 ・ 即応

地図を観ると災害が見えてくる！

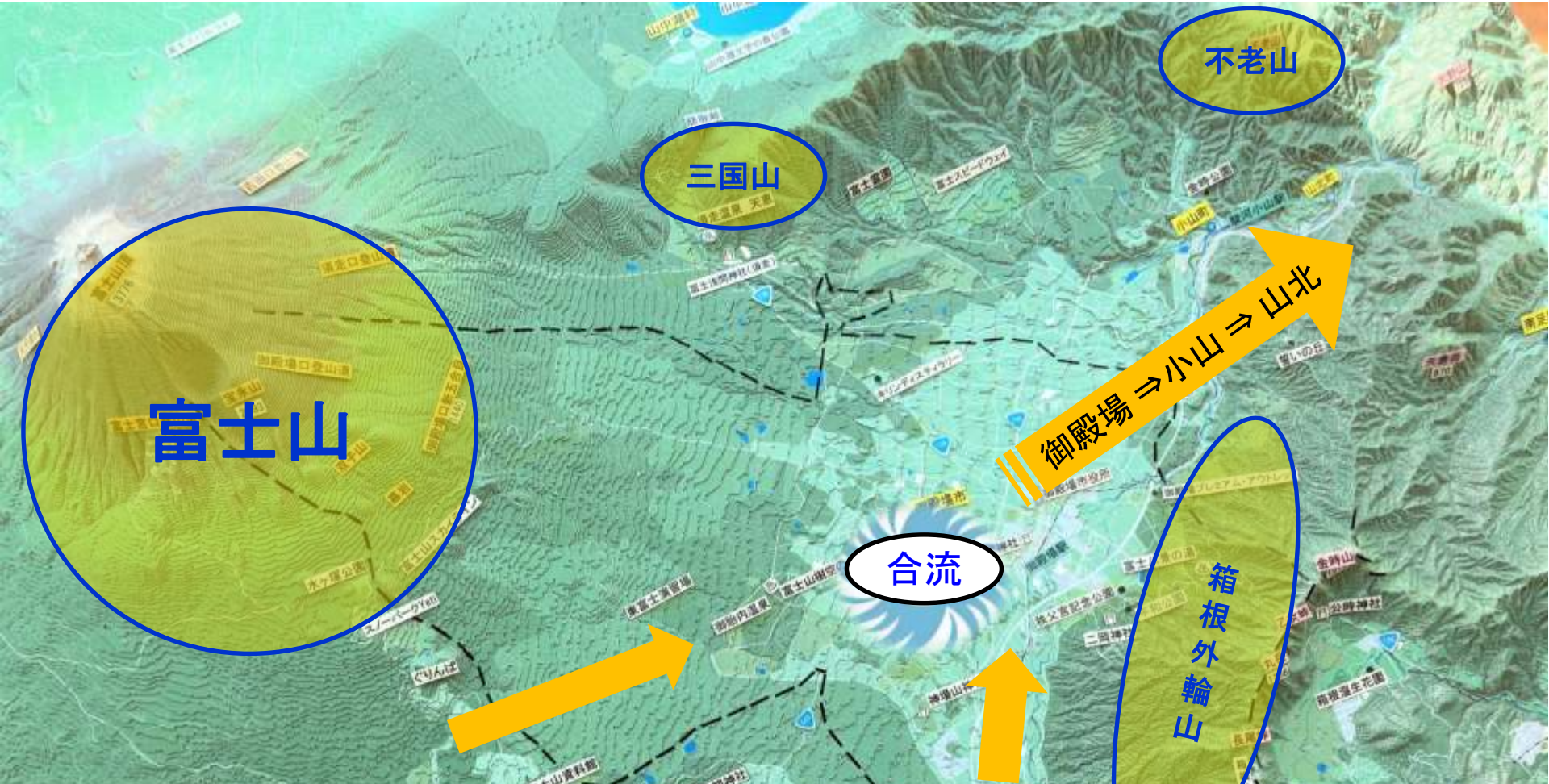


霊峰富士の裾野に広がる御殿場市



西風の道(須山街道)

東風の道(旧246号)



富士山

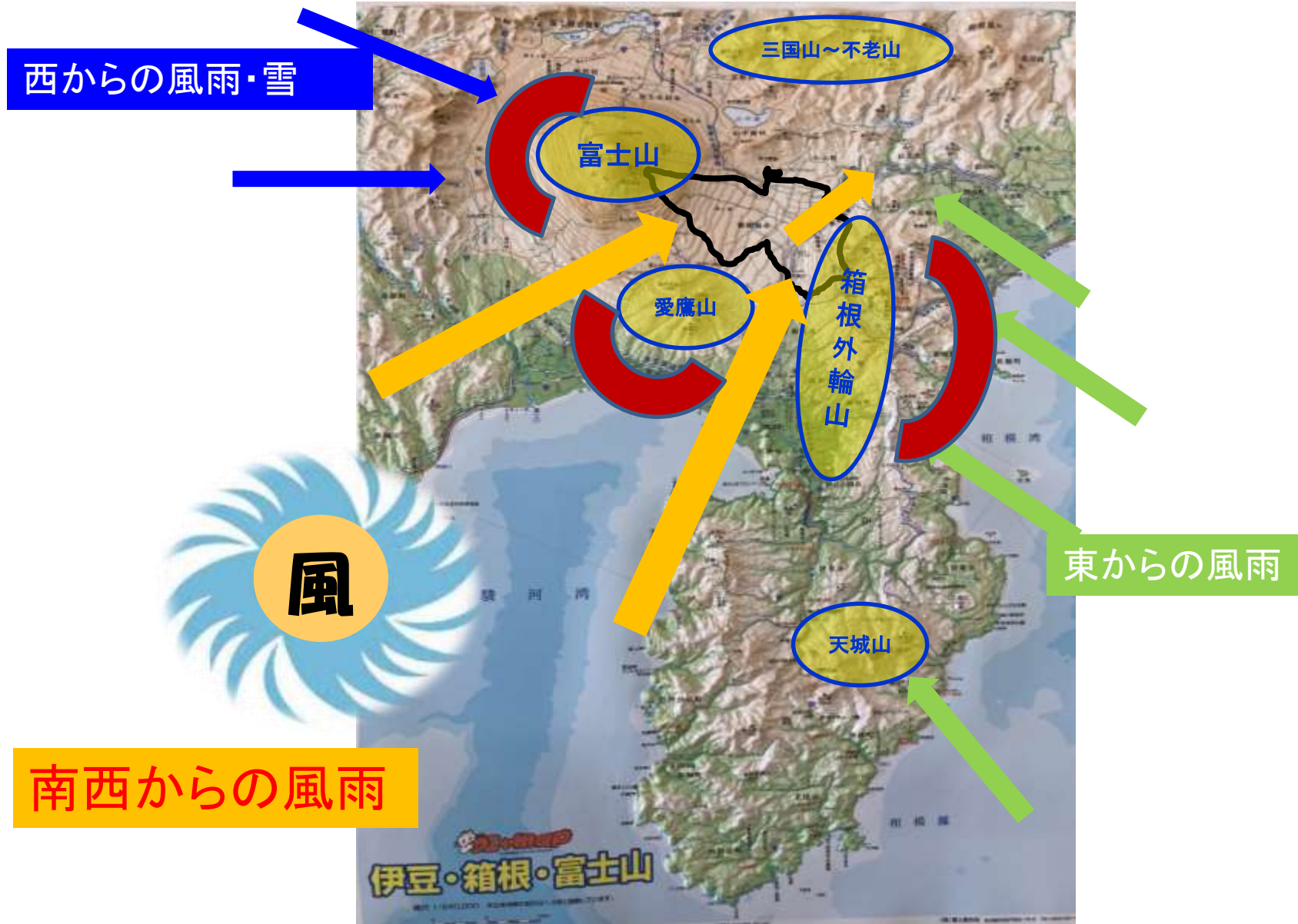
西風の道(須山街道)

東風の道(旧246号)

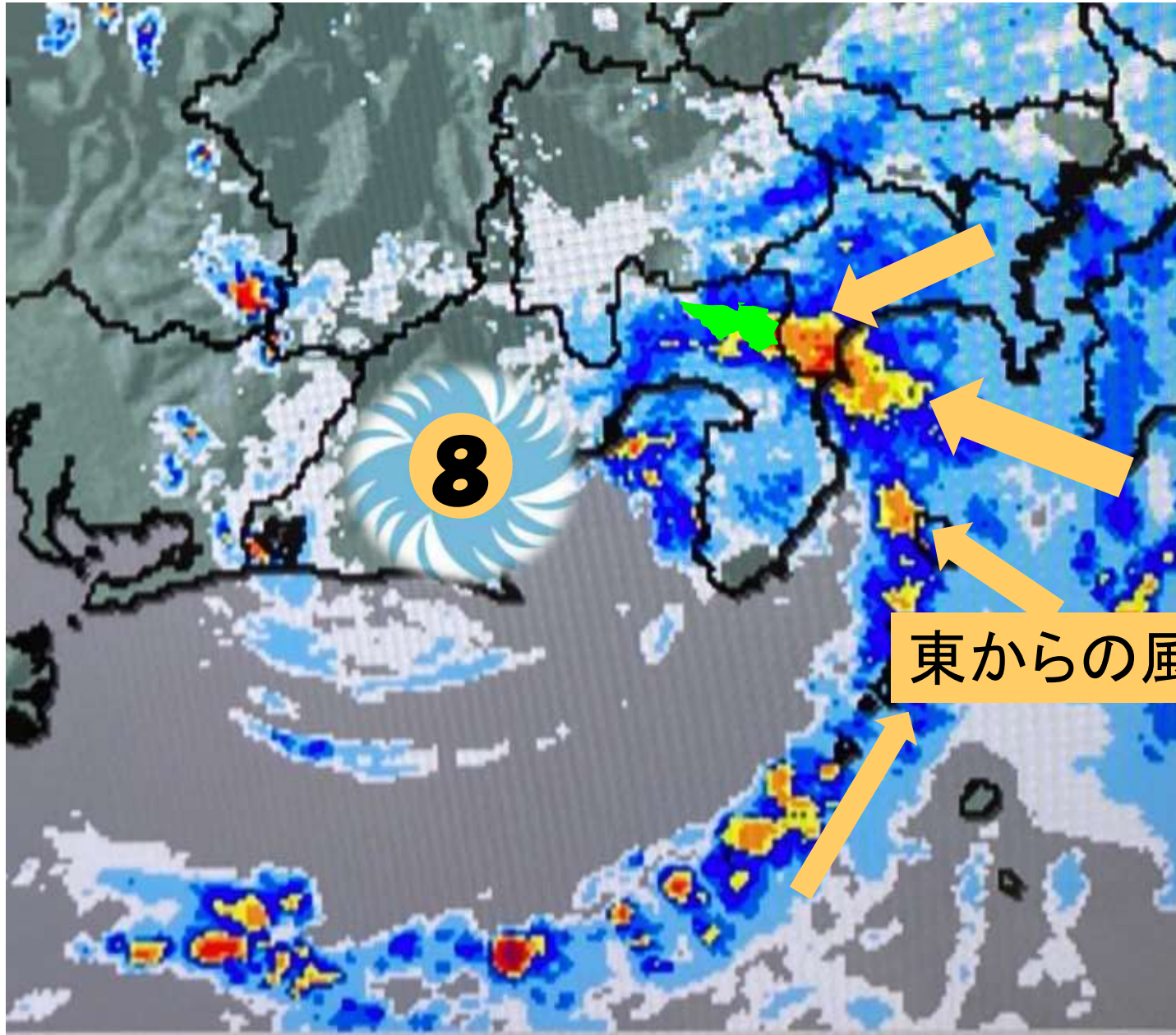
愛鷹山

箱根外輪山

地形が風向に及ぼす影響



台風8号の影響(8月13日15:46) ⇒ 箱根外輪山が盾に！



御殿場は豪風雨
(線状降水帯⇒球状降水帯)

南西からの風雨

静岡



土砂災害警戒区域

がけ崩れ(21)



土石流(30)

◆ 土石流

豪雨によって山から崩れてきた土砂や石や岩が水と一緒にになって、ものすごい勢いで流れ落ちてくるもの
 ※ 速度は、時速**40～50 km/h**にもなります。
 ※ 大きな岩も流されて危険



◆ がけ崩れ(急傾斜地)

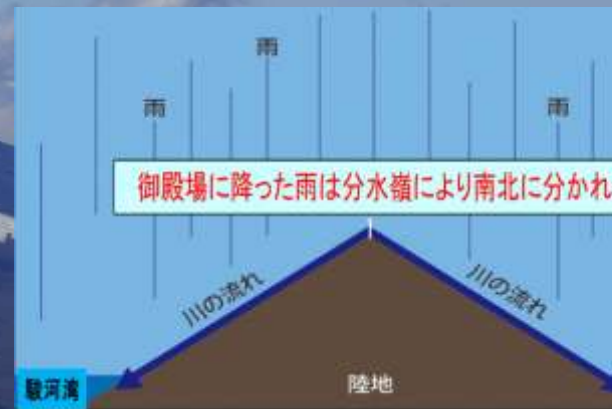
豪雨によって急な斜面が突然崩れ落ちるもの
 ※ 一瞬のうちに起こることが多いため、家が壊れ、逃げ遅れて亡くなる人が多い。

警戒区域該当区
11コ区

122世帯

310人

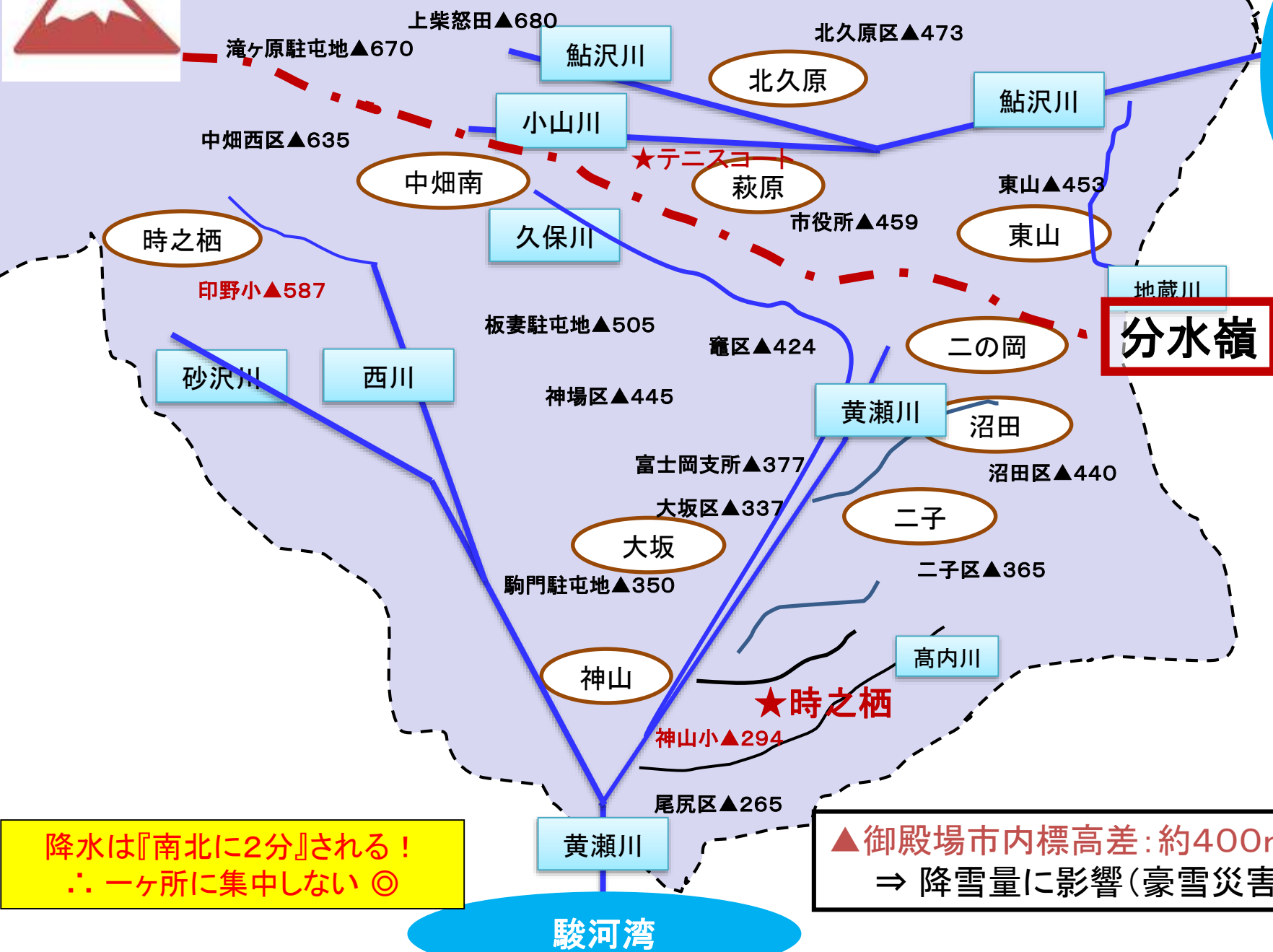
分水嶺(小高い丘)による影響





主要地区標高・河川の流れ

相模湾

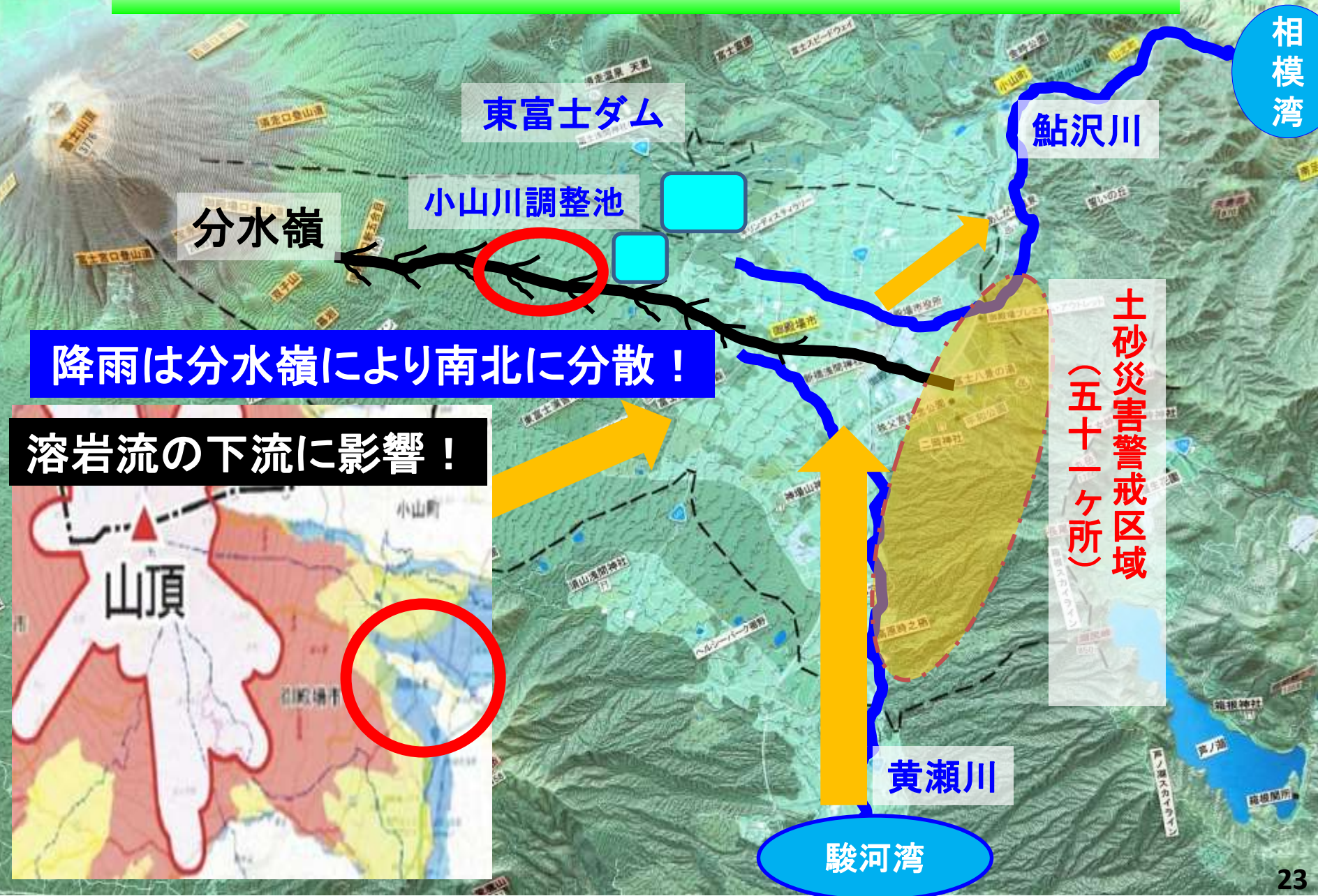


降水は『南北に2分』される！
∴ 一ヶ所に集中しない ◎

▲御殿場市内標高差: 約400m
⇒ 降雪量に影響(豪雪災害)

駿河湾

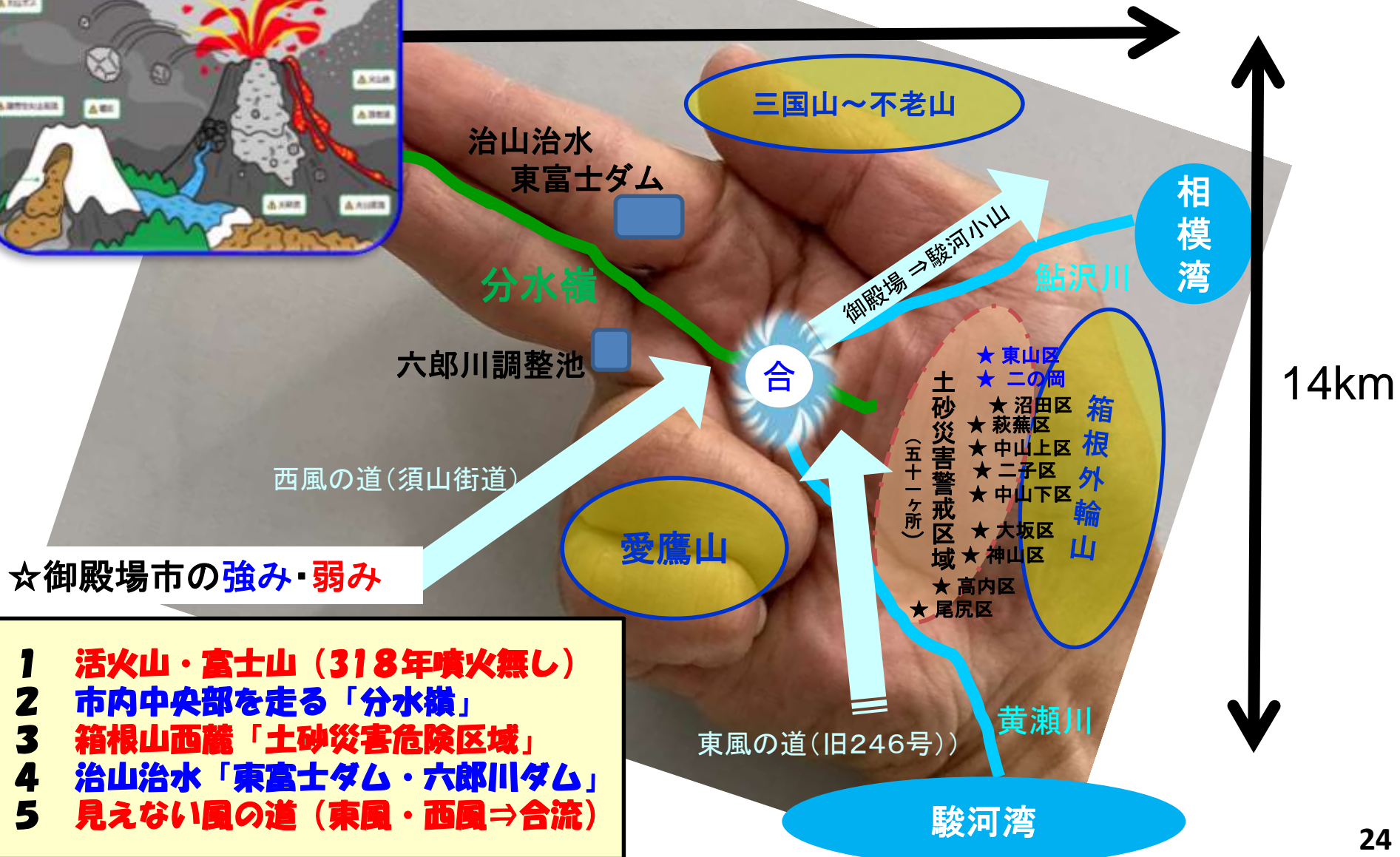
御殿場市の地形上の特性



御殿場市の防災上の特性『ハンドサイン』



24km(居住地は約10km)



- 1 活火山・富士山 (318年噴火無し)
- 2 市内中央部を走る「分水嶺」
- 3 箱根山西麓「土砂災害危険区域」
- 4 治山治水「東富士ダム・六郎川ダム」
- 5 見えない風の道 (東風・西風⇒合流)

御殿場市域における主な災害

出典：御殿場市地域防災計画「資料の巻」

台風：6件 集中豪雨：1件 低気圧：1件 大雪：1件 地震：3件

災害発生日	種 別	概 要
昭和41年9月24 ～25日	台風	台風第24号と26号が日本列島を縦断 御殿場市の被害は 負傷者2人、住家全壊6戸、半壊382戸、床下浸水多数 、罹災世帯2,231世帯、罹災者11,155人、被害総額6億9,109万円 御殿場市にはじめて「災害救助法」適用
昭和47年7月12日	集中豪雨	静岡県東部に集中豪雨 御殿場市では 床上・床下浸水138世帯 、田畑の流出・冠水等672ha、被害総額2億5,393万円
昭和54年10月19日	台風	台風第20号による御殿場市の被害は、 住宅全壊10戸、半壊4戸、流失1戸、床上浸水42戸、床下浸水810戸 、損害額23億394万円、総雨量300mm
昭和57年8月1日	台風	台風第10号による御殿場市の被害は、 住家半壊5戸、一部破損1戸、床上浸水21戸、床下浸水107戸 、損害総額18億530万円、総雨量555mm
平成16年12月5日	急速に 発達した 低気圧	急速に発達した低気圧の影響で御殿場市塚原地先にて 家屋が倒壊、負傷者3名 (平成16年の台風上陸個数は、気象庁の統計開始以来の記録(6個)を大きく更新し10個を記録)
平成19年9月6日	台風	台風第9号による御殿場市の被害は 床上浸水13戸、床下浸水31戸 、特に富士岡地区は 黄瀬川の氾濫 により、甚大なる被害を受ける。被害総額3億4千百万円、総雨量631mm
平成22年9月8日	台風	台風第9号による御殿場市の被害は 床上浸水1戸、床下浸水10戸、道路等被害22か所、農地等被害174か所などの被害 を受ける。被害総額約1億3千万円、降水量10時間で218mm
平成23年9月21日	台風	台風第15号による御殿場市の被害は、 負傷者4名、床下浸水や屋根・窓の損壊11件、倒木による道路障害74か所以上 、農地等被害16か所、停電1,100戸などの被害を受ける。被害総額約5,700万円 1時間あたりの最大降水量63mm、最大瞬間風速45.9m
平成26年2月14日	大雪	低気圧接近に伴い大雪警報が発令され、御殿場消防署管内の 積雪量が85cm となった。東名高速道路をはじめ市内主要幹線で交通規制が行われ、公共交通機関も運休となった。 御殿場市では 軽症者16名、住家の一部破損やビニールハウスの倒壊等の被害が多数発生

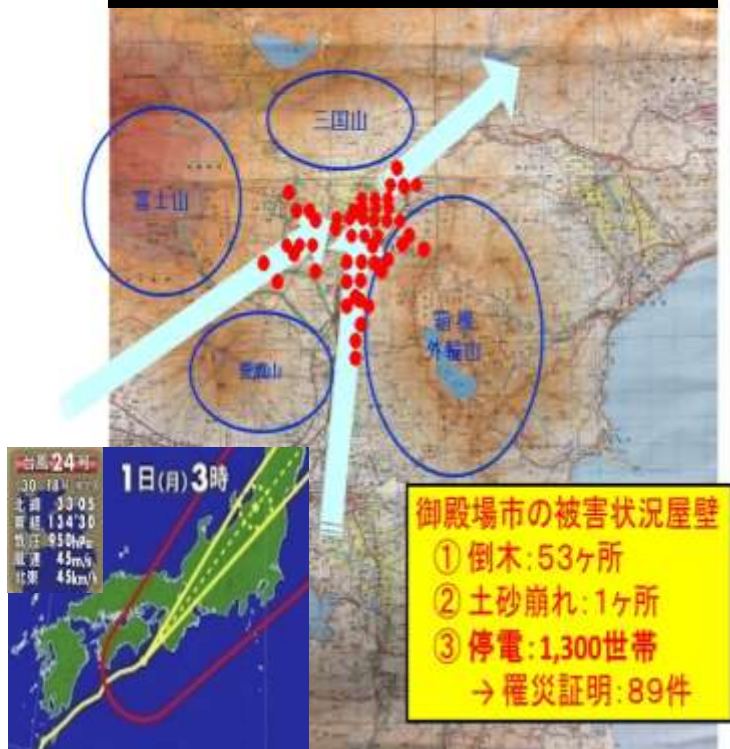
御殿場市域における主な災害

災害発生日	種別	概要
平成30年9月30日	台風24号	台風第24号による被害は、全国死者5名・負傷者227名・行方不明者2名（御殿場人的被害無し）、 停電1,300世帯、屋根・壁・シャッター損傷89件、倒木53ヶ所、土砂崩れ1ヶ所 など特に強風による物的被害を多数受ける。
令和元年10月12日	台風19号	台風第19号による御殿場市の被害は、 死者1名、負傷者1名、床上浸水6戸、床下浸水3戸、屋根や窓等の損壊31戸、農地等被害12箇所、市道陥没等の道路被害4箇所、河川護岸崩落等の被害4箇所、林道等の被害21箇所、東山旧岸邸、乙女3号井源泉施設、青少年広場の損傷、県指定天然記念物「東山のサイカチ」の損壊 などの被害を受ける。 被害総額約8,700万円 総雨量558mm

大雪：H26.2.14 豪雪被害



台風24号：H30.9.30 暴風被害



台風19号：R1.10.12 大雨被害



御殿場市の災害への対応

震災における一般的活動

段 階 区 分	予 防	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	第Ⅳ期
		即時対応期	応急対応期	本格対応期	復旧・復興期
		(発災当日)	(1～3日程度)	(3日～1W)	(1W～数年)
状 況	★ 前震	★ 地震発生 被害状況の判明／避難所運営 ★ ライフライン(電気・水道・ガス・電話・交通等)寸断 ★ 火災 ★ 津波 // 富士山噴火			
災 害 対 応	防災教育 防災訓練 防災会議 ・ 非常時の 備 え	◆ 自助 (先ずは自分自身で身を守る！) ◆ 共助 (地域の人々がお互いに助け合う！) ◆ 公助 (行政を中心とした様々な対応、大規模災害では行政機関も被災) 緊急対策(救命・救出) → 応急対策(ライフライン復旧) → 復旧・復興対策(社会基盤の再建)			
災 害 対 策 本 部 の 行 動	規則整備 本部付班 図上訓練 総合訓練	◆ 市役所職員参集 ● 避難所・救護所の設置・運営 ①情報活動 ②本部員会議開催(災害応急対策) ③災害広報 ★ 災害対策本部(支部)設置 ④県への報告等			
活 動 内 容	防災訓練 ・ 待機任務	● 初動体制確立 ● 人命の救助 ● 避難所の開設	● 人命の救助 ● 行方不明者の 搜索等	● 生活支援 ● 復旧支援等 仮設住宅建設	● ライフ ラインの復旧 ● 生活再建

御殿場市災害対策本部・支部(区)会議



御殿場支部



富士岡支部



原里支部



玉穂支部



印野支部



高根支部

御殿場市災害対策本部組織図



主要な災害応急対策

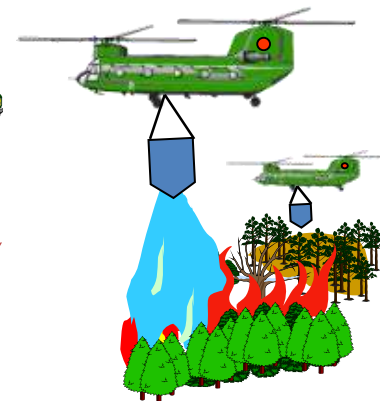
搜索・救助



物資輸送



消火活動



患者空輸



避難所の開設



ライフライン復旧活動



救護所の開設



災害対策本部

災害ボランティア本部



入浴支援



給水・給食支援



埋火葬対応



災害対策本部の組織と執るべき災害応急対策

全部・要員が一丸となって災害応急対策＝住民の生命、身体、財産の保護を遂行する！！

自治体の責務

住民の生命、身体及び
財産の災害からの保護

災害対策本部

本部長

副本部長

本部員
(各部局長)

本部要員

○参謀として本
部長の意思決
定を補佐

○実行部隊とし
て、本部決定
事項を執行

各部長の立場

本部室付班

企画部

総務部

市民部

健康福祉部

環境部

産業スポーツ部

都市建設部

会計部

教育部

議会部

広域行政部

支部

非常備消防部

常備消防部

実施すべき業務

執るべき災害応急対策

◎ 発災当日の被害状況

①救護所の開設・運営状況

②避難所の開設・運営状況

③応急危険度判定実施状況

④備蓄物資の配分状況

⑤ライフラインの復旧状況

⑥観光客への対応

⑦遺体収容所の開設・運営状況

⑧災害ボランティア本部開設支援

⑨農林業施設の被害及び復旧状況

⑩安全情報の収集に関する状況

⑪市民広報及び報道対応状況

⑫職員の被害状況及び再編成

⑬本部施設の被害・復旧状況

⑭公用車の集中管理（配車）状況

・情報収集・提供・伝達
・報告・要請・連絡・調整
・要請・要求・相談への対応

住民

学校
(避難所)

自主防災会等

民児委協議会

管理施設

関係機関

事業所

協定業者

観光施設

マスコミ

社会福祉
協議会等

帰宅困難者
(観光客)

国・他自治体

応援部隊

協定締結市

要配慮者

在留外国人

その他

高根支所
(高根支部)

	高根地区
1	塚原(つかばら)
2	六日市場(むいかいちば)
3	美乃和(みのわ)
4	清後(せいご)
5	山之尻(やまのしり)
6	柴怒田(しばんだ)
7	上小林(かみこばやし)
8	水土野(みどの)
9	古沢(ふるさわ)

御殿場市の行政組織『1・6・59』

御殿場地域振興センター
(御殿場支部)

	御殿場地区
1	御殿場(ごてんば)
2	深沢(ふかさわ)
3	東山(ひがしやま)
4	東田中(ひがしたなか)
5	二の岡(にのおか)
6	鮎沢(あいざわ)
7	新橋(にいはいし)
8	湯沢(ゆざわ)
9	萩原(はぎわら)
10	二枚橋(にまいばし)
11	西田中(にししたなか))
12	北久原(ほくくばら)
13	仁杉(ひとすぎ)
14	栢ノ木(かやのき)
15	永原(ながはら)

玉穂支所
(玉穂支部)

	玉穂地区
1	茱萸沢下(ぐみざわしも)
2	茱萸沢上(ぐみざわかみ)
3	中畑東(なかばたひがし)
4	中畑北(なかばたきた)
5	中畑南(なかばたみなみ)
6	中畑西(なかばたにし)
7	川柳(かわやなぎ)

印野支所
(印野支部)

	印野地区
1	小木原(おぎわら)
2	時之栖(ときのス)
3	印野(いんの)

高根
4,431人
5,3%

玉穂
8,560人
10,2%

御殿場
35,259人
42,1%

原里支所
(原里支部)

	原里地区
1	川島田(かわしまた)
2	森之腰(もりのこし)
3	杉名沢(すぎなざわ)
4	神場(じんば)
5	板妻(いたづま)
6	保土沢(ほとざわ)
7	永塚(ながづか)
8	北畑(きたばた)
9	大沢(おおさわ)
10	矢崎(やざき)

印野
1,930人
2,3%

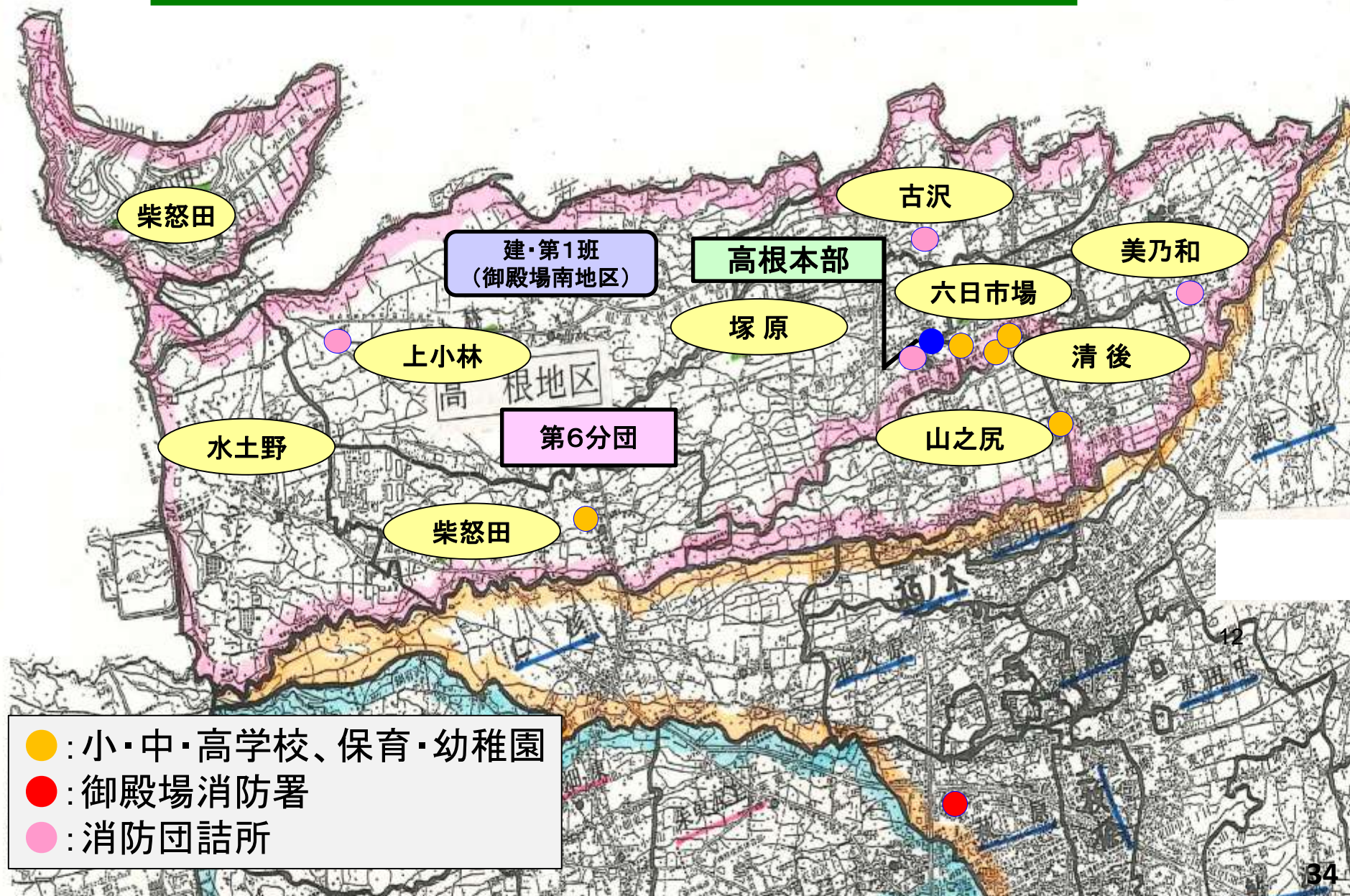
原里
15,609人
18,6%

富士岡
15,919人
19,0%

富士岡支所
(富士岡支部)

	富士岡地区
1	竈(かまど)
2	萩蕪(はぎかぶ)
3	沼田(ぬまた)
4	二子(ふたご)
5	中山上(なかやまかみ)
6	中山下(なかやましも)
7	風穴(かざあな)
8	中清水(なかしみず)
9	駒門(こまかど)
10	大坂(おおさか)
11	町屋(まちや)
12	高内(たこうち)
13	尾尻(おじり)
14	神山(こうやま)
15	富士見原(ふじみはら)

学校・地域振興センター・消防署・消防団・建設業会との連携
～ マンパワー・マシンパワーの地域一体化 ～



約8.0km

高根
4,431人
5.3%

約3.5km

六日市場

六日市場区	組数	世帯数	区民数	男	女	避難行動要支援者	戸別計画対象者
	4	125	291	143	148	9	4

災害時における自主防災会としての活動

● 情報収集と伝達（情報班）

- 正確な情報の伝達
- 防災関係機関との連絡
- うわさ話、デマ発生の防止
- 複数手段の活用



● 救出救護と避難行動要支援者の安全確保（救出救護班）

- 救出・救護活動
- 負傷者の応急手当・搬送
- 避難行動要支援者の支援



● 避難の誘導（避難誘導班）

- 避難者を避難所に誘導



● 避難所の開設・運営支援

- 飲料水の確保
- 炊き出し
- 食糧・生活用品の配布

● 災害関連死の絶無



説明項目

I 御殿場市の災害「特性と対応」

- ◆ 災害上の特性

- ◆ 災害への対応

II 防災マップとハザードマップの活用

防災マップ・ハザードマップの活用

防災マップ

災害時に役立つ情報を総合的に伝えるもの

避難場所、避難経路、防災拠点や医療施設の場所、地域ごとの災害リスク、取るべき行動方針などを記述

地域の情報に特化し、住民が安全に避難できるよう支援するもの ⇒ 日頃の備え、避難時の行動に活用

地域住民全員を対象

種類

目的

内容

特徴

対象

ハザードマップ

自然災害の危険性(リスク)や被害想定を地図上で視覚化するもの

浸水地域、土砂災害警戒区域、建物の倒壊リスク、活断層の位置など災害リスクが高い地域を記述

居住地の選定、引っ越し前の確認、防災計画策定 ⇒ 津波、洪水、土砂災害、溶岩流のリスクを表示

災害リスクが高い地域の住民

マップ表示



日頃からの備え

●警戒宣言が発令されたとき、避難する場所や経路を決めていますか？



●自分の家が地震に安全かどうかの耐震診断をしていますか？
詳しくは建築住宅課 82-4224



●家具類が倒れないように固定してありますか？
詳しくは危機管理課 82-4370



●ブロック塀や門柱などの点検、改善はしてありますか？
詳しくは建築住宅課 82-4224



●家族の7日分の食糧(うち調理不要の非常食3日分程度)と飲料水(1人1日3ℓが目安です。)を保存していますか？

アレルギー対策食品や粉ミルクなどの保存もしましょう。



●警戒宣言発令時の家族の役割分担や連絡方法を決めていますか？



●自分で初期消火等が行えるよう、ふだんから訓練に参加していますか？



●自分の住んでいる場所は土砂災害の危険はありますか？



地震が起きた時の心得10ヶ条

① まず、わが身の安全を



② 揺れがおさまったら火の始末



③ 山崩れ、がけ崩れ、に注意



④ 火が出たらまず消火



⑤ 外へ逃げるときはあわてずに



⑥ 狭い路地、へいぎわ、がけや川べりに近寄らない



⑦ 避難は歩いて、持物は少なく



⑧ 協力しあって応急救護



⑨ 正しい情報をつかみ、デマにまどわされない



⑩ 秩序を守り衛生に注意



非常持出品リスト

●貴重品

現金、預貯金通帳、印かん、免許証、権利証書、健康保険証など。



避難するとき、まず最初に持ち出すべきものです。

●非常食品

カンパン・缶詰・栄養補助食品など調理せずにそのまま食べられる物、ドライフーズ、ミネラルウォーター、水筒、プラスチックか紙製の皿やコップ、わりばし、缶切り、乳幼児・高齢者・病人用に、缶詰やびん詰の離乳食、粉ミルク、レトルトのおかゆ、アレルギー対策食品など。

●携帯ラジオ

予備電池は多めに用意。

●懐中電灯

できれば1人に1つ。予備電池も忘れずに。

●応急医薬品

ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、目薬、消毒薬。持病のある人は常備薬。

●その他の生活用品

下着・上着、靴下などの衣類、軍手、タオル、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、雨具、ライター、ビニール袋、生理用品、紙おむつなど。

非常備蓄品リスト

非常備蓄品は、災害復旧までの数日間(最低7日分)を自足できるように準備しておくものです。

●飲料水

飲料水は1人1日3リットルを目安に。缶入りやペットボトルのミネラルウォーターがよい。ペットボトルよりも缶入りの飲料水のほうが長持ちする。



●非常食品

カンパン、缶詰やレトルトのおかず、栄養補助食品、アルファ米、レトルトのごはん、ドライフーズ、インスタント食品、梅干し、チョコレート・アメなどの菓子類、調味料など。



●その他の生活用品

生活用水(乳児に注意して風呂や洗濯機に備蓄、寝る前にはやかんやポットにも水を入れておく)。毛布、寝袋、洗面用具、ポリ容器、なべ、やかん、バケツ、トイレトペーパー、使い捨てカイロ、ろうそく、さし、ロープ、パール等工具、ビニールシートなど。



地震防災マニュアル

地震発生

地震発生時の行動パターン

まず

落ち着け!身を守れ!玄関をあけろ!『**お・う・た!**』:『**落ちる物・動く物・倒れる物**』

1~2分後

揺れがおさまったら次の行動を!

- 危険予想地域はすぐ避難…津波、山・崖崩れ予想地域はすぐ避難
- 火元を確認!…火が出ても落ち着いて初期消火
- 家族は大丈夫か!…声をかけあって状況を確認
- 靴を履く!…家の中も危険物でいっぱい
- 非常持出し品!

3分後

みんな無事か!

- 隣近所に声をかける…身の周りの人にけが人や不明者がいないか?
- 近くに火が出ていないか!
- 大声で知らせて皆で助けあおう…消火器・バケツリレーで対応(消火栓は使用できない場合があります)
- 漏電・ガス漏れにも注意…切れた電線や、異臭に気をつけよう
- 余震にも注意…余震は必ずあると心がけよう

5分後

テレビ・ラジオをつけろ!

- 周辺地域の正しい状況を知ろう…デマに感わされないこと
- 電話はなるべく使わない!
- 緊急連絡電話を優先…市町村・自主防災組織の情報を確認
- 車はカギをつけて放置し徒歩で避難…ブロック塀やガレキに注意

10分~
数時間後

みんなで協力して消火・救出活動をする!

- 自主防災組織・自治会・事業所で協力…消火・救出困難な現場は消防署等へ要請(災害規模によっては、すぐに対応できない場合があります)

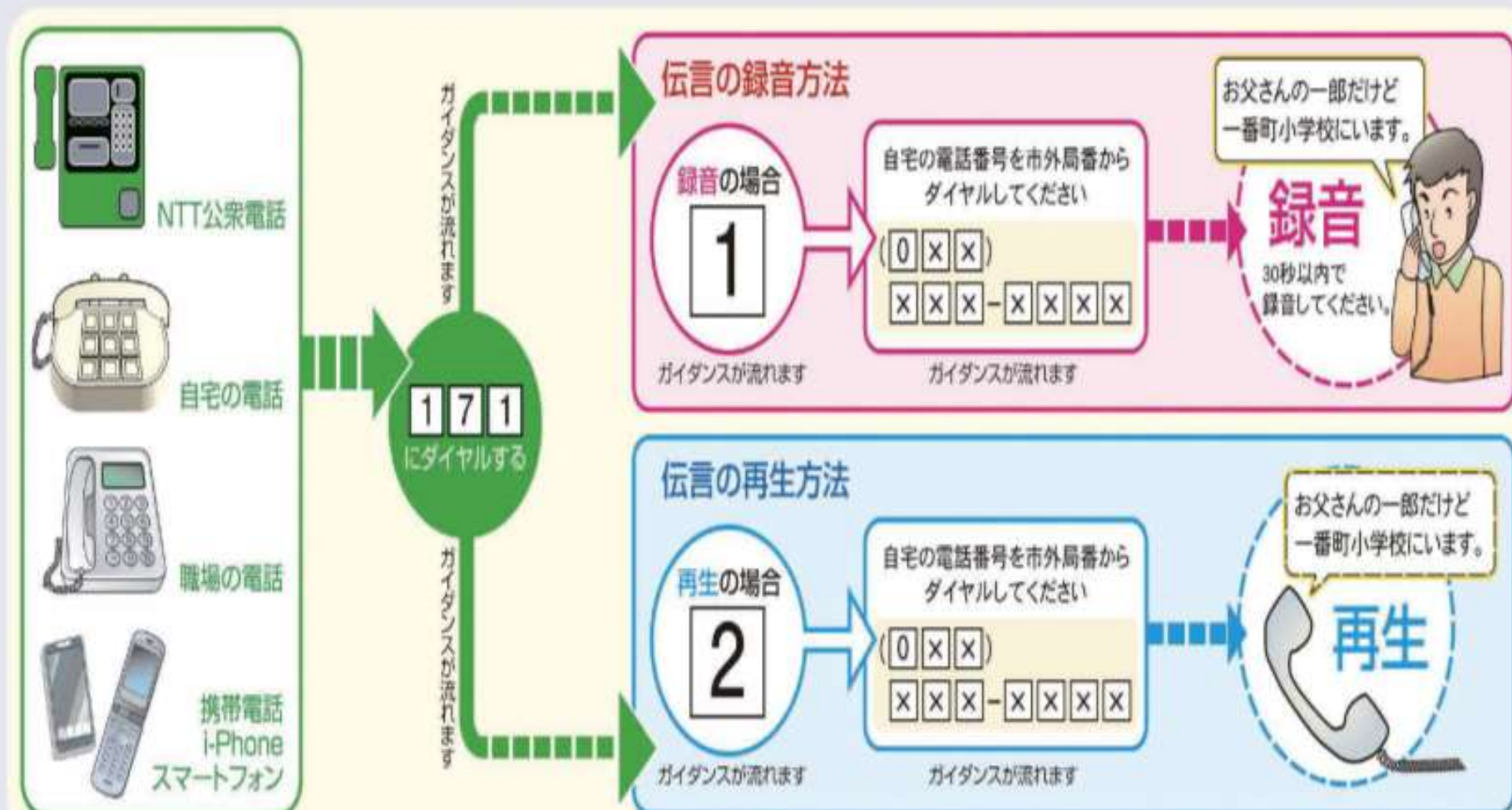
~3日後

協力して安全な避難生活を確保する!

- 水・食糧は備蓄でまかなう
- 壊れた家には入らない
- 皆で協力して助け合おう
- 無理は禁物!がまんも大切

災害用伝言ダイヤル「171」について

地震や大雨等の災害により、被災地等に安否確認の電話が殺到して、電話がかかりにくくなることがあります。「災害用伝言ダイヤル」は、伝言の録音と再生により、家族、親戚等の安否を確認するものです。「171」にダイヤルすると、ガイダンスが流れますので、それに従って操作を行ってください。



防災マップ⑥『火山噴火時の備え』

避難に備えて

●避難する場合は、以下に注意しましょう

■忘れてませんか？

- 1 戸締り、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- 2 貴重品は忘れずに持参しましょう。
- 3 非常持ち出し品を確認しましょう。
- 4 外出中の家族のために、避難先を書いたメモを残しましょう。

■避難する場合は・・・

- 1 市役所や消防団などの指示に従い、落ちついて行動しましょう。
- 2 お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。
- 3 小石が降ってくることがあるのでヘルメットなどで頭を守りましょう。
また灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。
- 4 くぼ地には有毒ガスがたまりやすいので、近づかないようにしましょう。

■避難場所では・・・

- 1 人数を確認し、逃げ遅れた人がいないか確認しましょう。
- 2 お互いに助け合いましょう。
- 3 ラジオやテレビ、同報無線などの情報に注意しましょう。



●噴火しそうな時、噴火が始まった時には

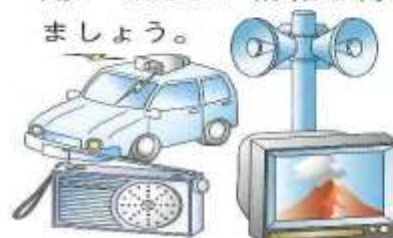
気象庁が発表する火山
情報に注意しましょう。



デマやうわさに感わさ
れないようにしましょう。



テレビやラジオのニュ
ース、市の無線などを
聞いて正しい情報を得
ましょう。



避難勧告などの指示が
あった場合には従いま
しょう。



地震発生時の活用

地震発生時の避難要領



御殿場市防災マップ

(六日市場区)

凡	例
---	区範囲
---	組範囲
■	区・組・班集合場所
■	一次避難所
■	市指定避難地
■	市指定広域避難所
倉	防災倉庫
●	消火栓
■	防火用水利
▲	街頭消火器
P	ポンプ小屋
—	避難路
公	公民館・コミュニティセンター
●	公共施設
救	救護所
AED	AED
H	ヘリポート

地震発生



六日市場区にお住まいの方

① 集合場所	・各組集合場所
② 1次避難所	・六日市場公民館
③ 市指定広域避難所	・高根小学校
④ 救護所	・救急医療センター

第1救護所(救急医療センター)

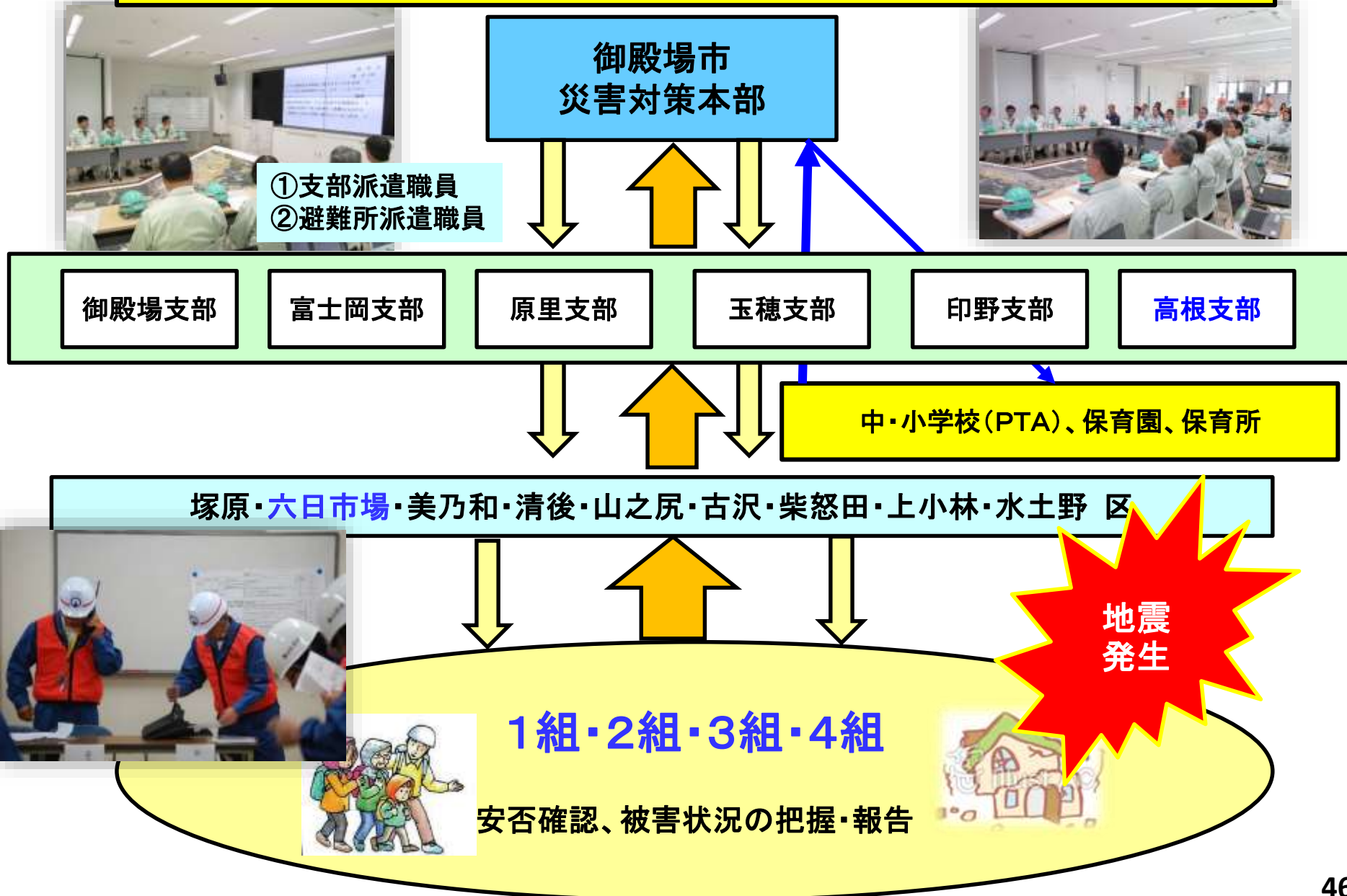
各区内班・組



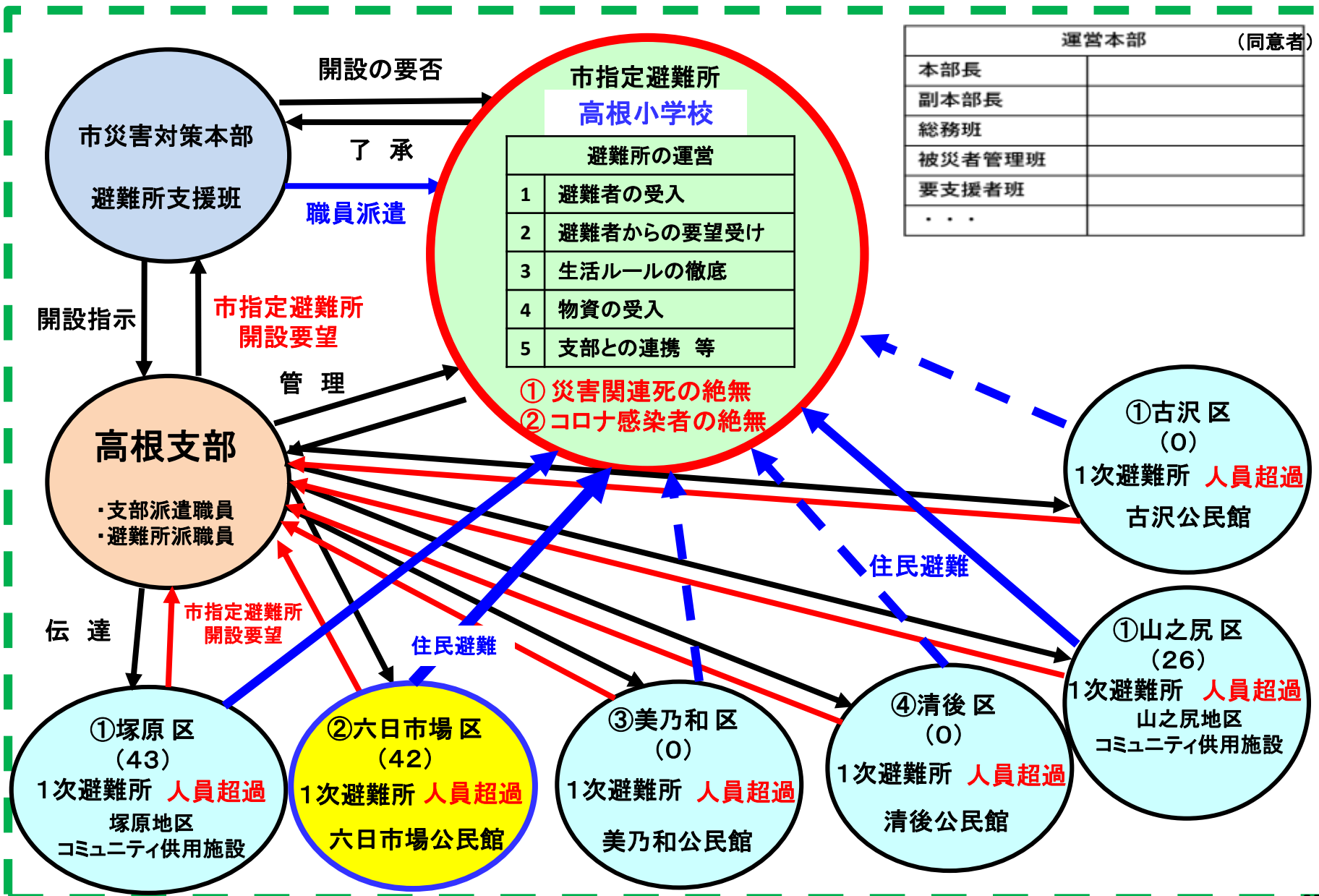
安否確認・被害状況の把握・報告

災害発生時の報告・通報の流れ

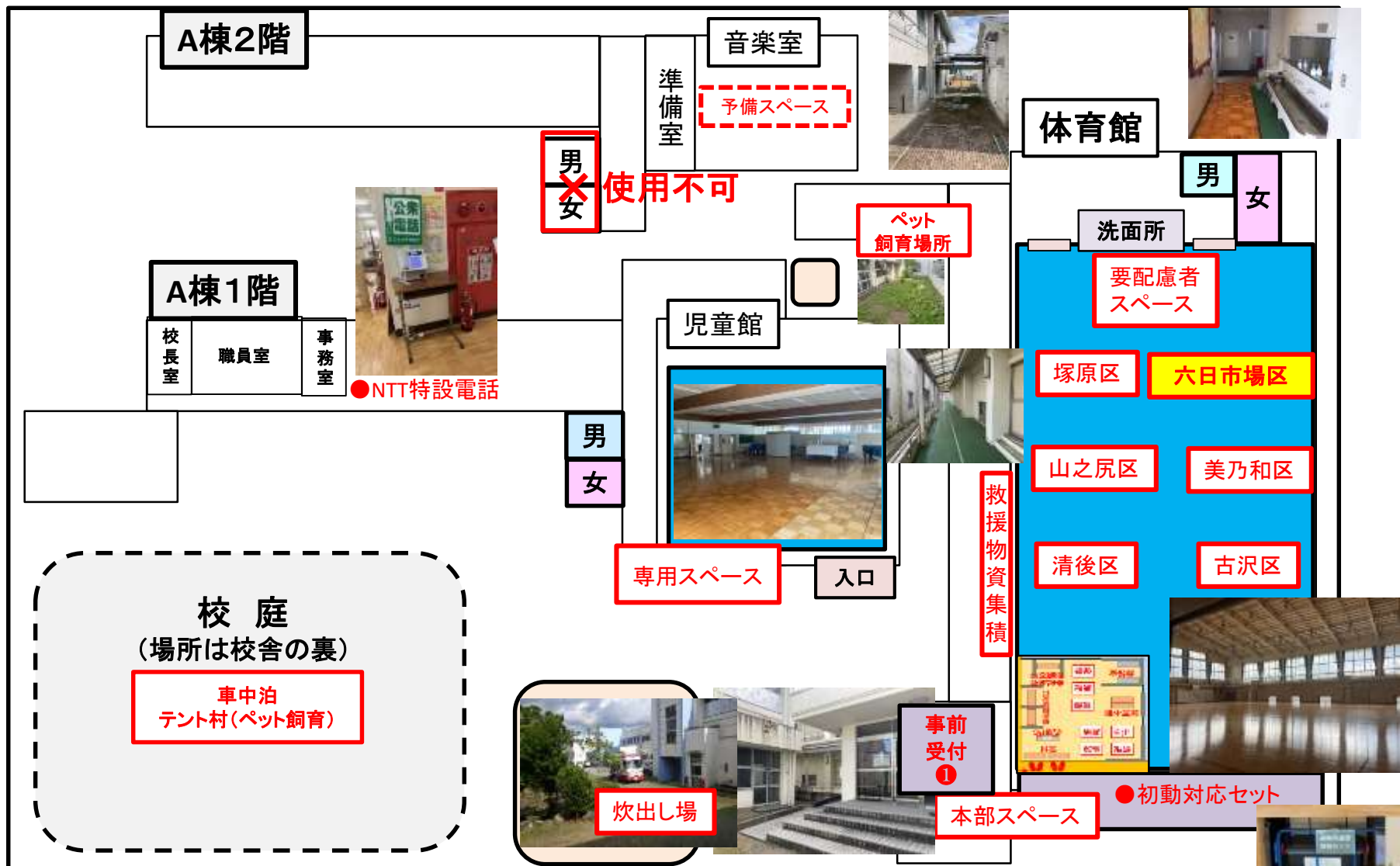
「御殿場災害情報」:^{のほ}上りの情報・^{くだ}下りの指示 ⁵⁹⁶ご苦労(59・6) ^{いつ}重ねてー(1)になる！



高根小学校避難所関係区の相関図



高根小学校避難所レイアウト（一案）

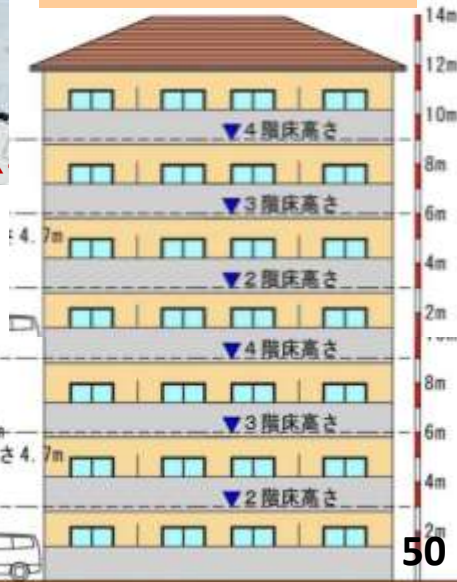


風水害発生時の活用

六日市場区内等高線(高低差25m)



25m≠建物約9階



六日市場区内の河川



つつじ川

▲451m

▲456.7m

4組

4組

社護地川

4班

1班

▲442m

3組

六日市場区

宮川

高根駐在所

高根火防隊

六日市場公民館

▲431m

3組

2組

山尾田川

2組

高根小学校

▲447m

高根中学校

1組

1組

▲435m

▲429m

竜良川橋

竜良川

▲441m

竜良川

にこにこ橋

令和元年台風19号 河川情報：10月12日17：50頃

2019年10月12日17時50分



指定河川洪水予報

国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな被害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。



洪水警戒の危険度分布



御殿場市洪水ハザードマップ

鮎沢川・黄瀬川浸水想定区域図(最大想定)
(御殿場・原里地区)

鮎沢川浸水想定区域図

小山川

萩原
コミセン

想定し得る最大規模の降雨により浸水が想定される区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を表示。
なお、この浸水が想定される区域以外の区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がある。

【浸水想定区域図作成主体】

静岡県

【想定降雨】

鮎沢川：日総雨量530mm

【指定・公表年月日】

令和3年5月11日 公表

浸水想定区域凡例

	浸水が10.0～20.0mの区域
	浸水が5.0～10.0mの区域
	浸水が3.0～5.0mの区域
	浸水が1.0～3.0mの区域
	浸水が0.5～1.0mの区域
	浸水が0.3～0.5mの区域
	浸水が0.3m未満の区域
	河岸浸食
	水位周知河川を含む区間

黄瀬川浸水想定区域図

- 市役所・支所
- 救護病院
- 水位観測所
- 市指定広域避難所
- 市指定広域避難地
- 一次避難所

小山川の氾濫による被害

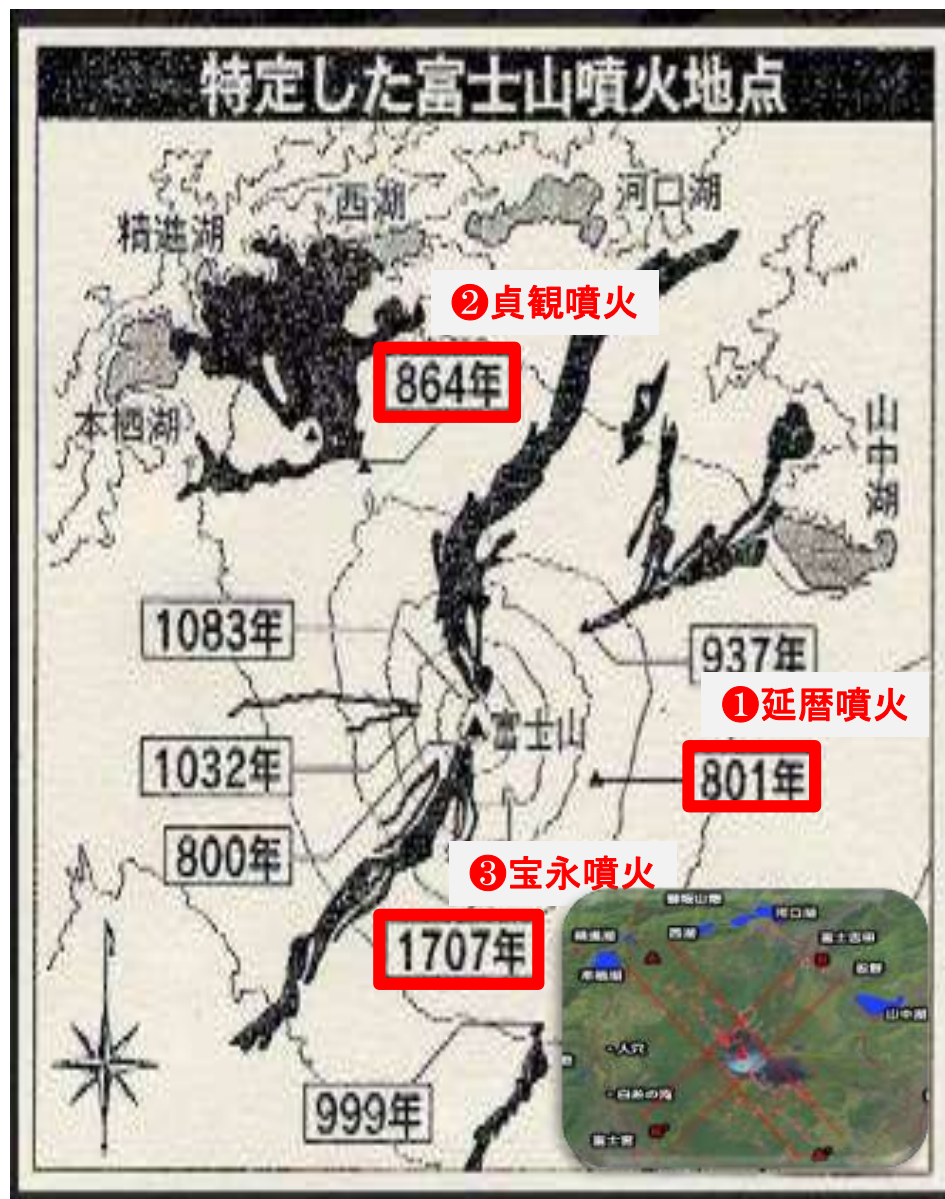


富士山噴火時の対応

富士山噴火年表と噴火地点

△ 富士山の主な噴火(三大噴火)

年代	活動種類	古記録の記載事項
781	噴 火	山麓に降灰、木の葉が枯れた(続日本紀)
800 ～ 802	① 延暦噴火	平安時代初期の大噴火 噴火による碎石が足柄路を塞いだため、 箱根路が新設される。(日本紀略)
864 ～ 866	② 貞観噴火	溶岩流が本栖湖とせの海に流れ込んで、 西湖と精進湖ができる(日本三代実録) 1,100年の時を経て青木ヶ原の樹海できる
937	噴 火	溶岩流が未知の湖を埋めた(日本紀略)
1033	噴 火	溶岩流が山麓に達した(日本紀略)
1083	噴 火	爆発的な噴火が発生(扶桑略記など)
1435	噴 火	富士山に炎が見えた(王代記)
1511	噴 火	河口湖付近で異様な鳴動を確認(妙法寺記)
1704	鳴 動	元禄関東地震の35日後から、4日間に わたって富士山が鳴った(大泉寺文書)
1707	③ 宝永噴火	宝永東海地震の49日後から、2週間に わたって爆発的な噴火が生じた (史料多数)



1 『富士山火山防災対策協議会HM』改定の経緯

富士山火山防災協議会

- ・富士山噴火を想定した火山防災対策を検討
- ・基礎資料としてハザードマップを作成
- ・富士山ハザードマップ検討委員会を設置（学識者等で構成）



＜内閣府公表＞

初めて富士山ハザードマップを作成（平成16年6月）

富士山火山防災対策協議会

国、県、火山専門家、静岡・山梨県・神奈川県、
周辺市町村など67の機関で構成

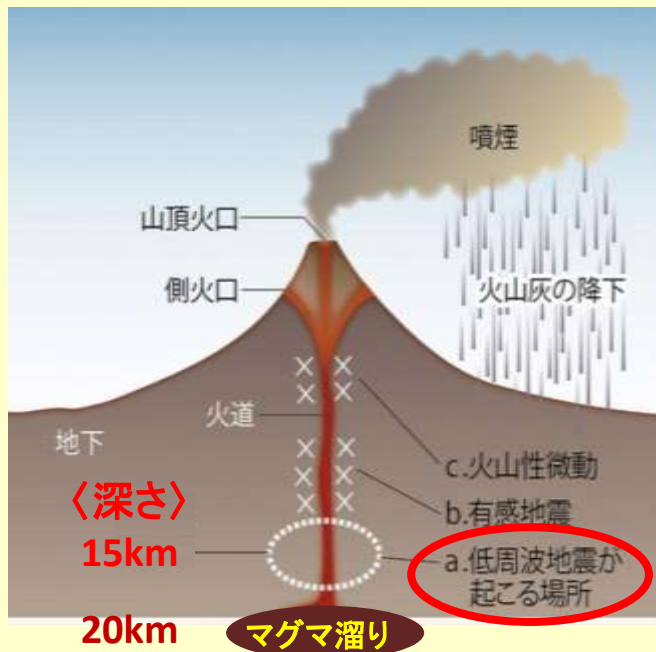
- ・広範囲にわたる火山災害に対して具体的な避難対象地域等
等を検討し富士山火山広域避難計画を策定（平成27年3月）

・富士山ハザードマップ（改定版）検討委員会

- ・平成30年7月 委員会設置
- ・令和3年3月 富士山ハザードマップ改定版報告書（案）取りまとめ
- ・令和3年3月26日 協議会開催により、富士山HM改定を決定

なぜ今、富士山火山避難基本計画か？

富士山 観測点・配置図



火山活動解説資料 (平成 15 年 3 月)

長期・月別 地震活動推移 (1995年6月以降の高周波地震・低周波地震の月別回数)

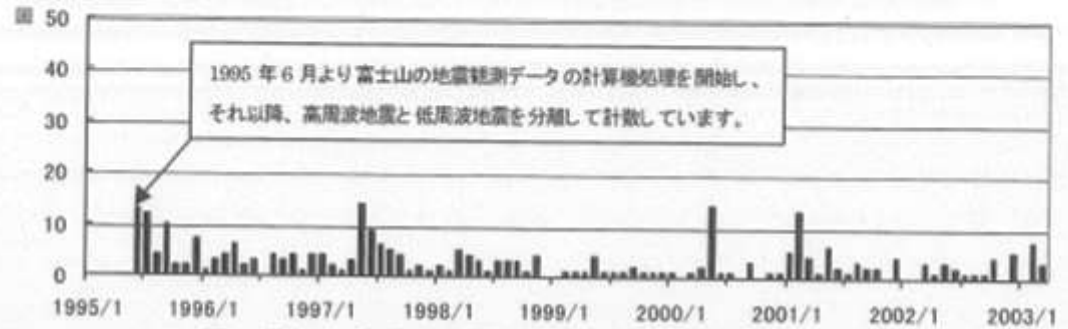
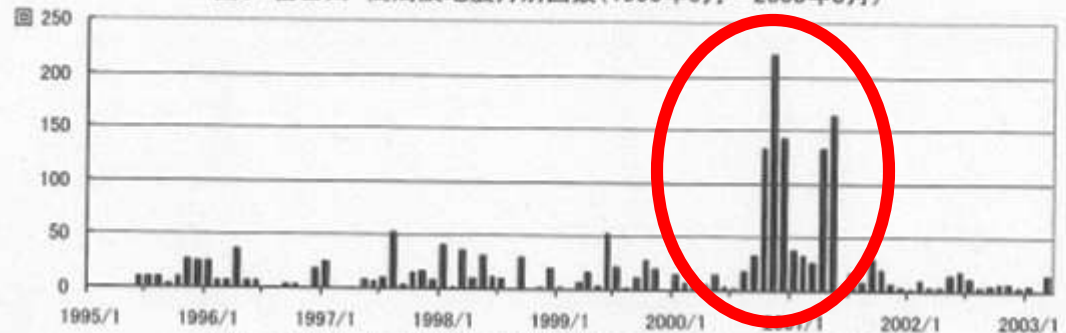


図3 富士山 高周波地震月別回数(1995年6月～2003年3月)



噴火の前兆現象(マグマの活動?):
低周波地震月別回数:2000年10月～2001年5月

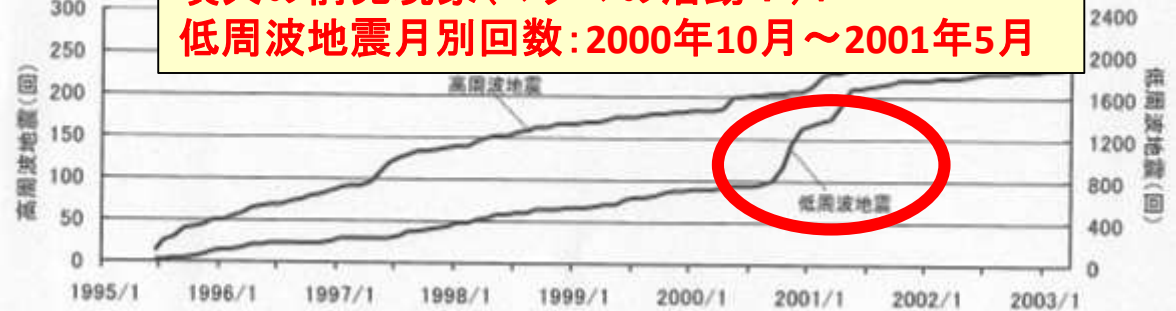
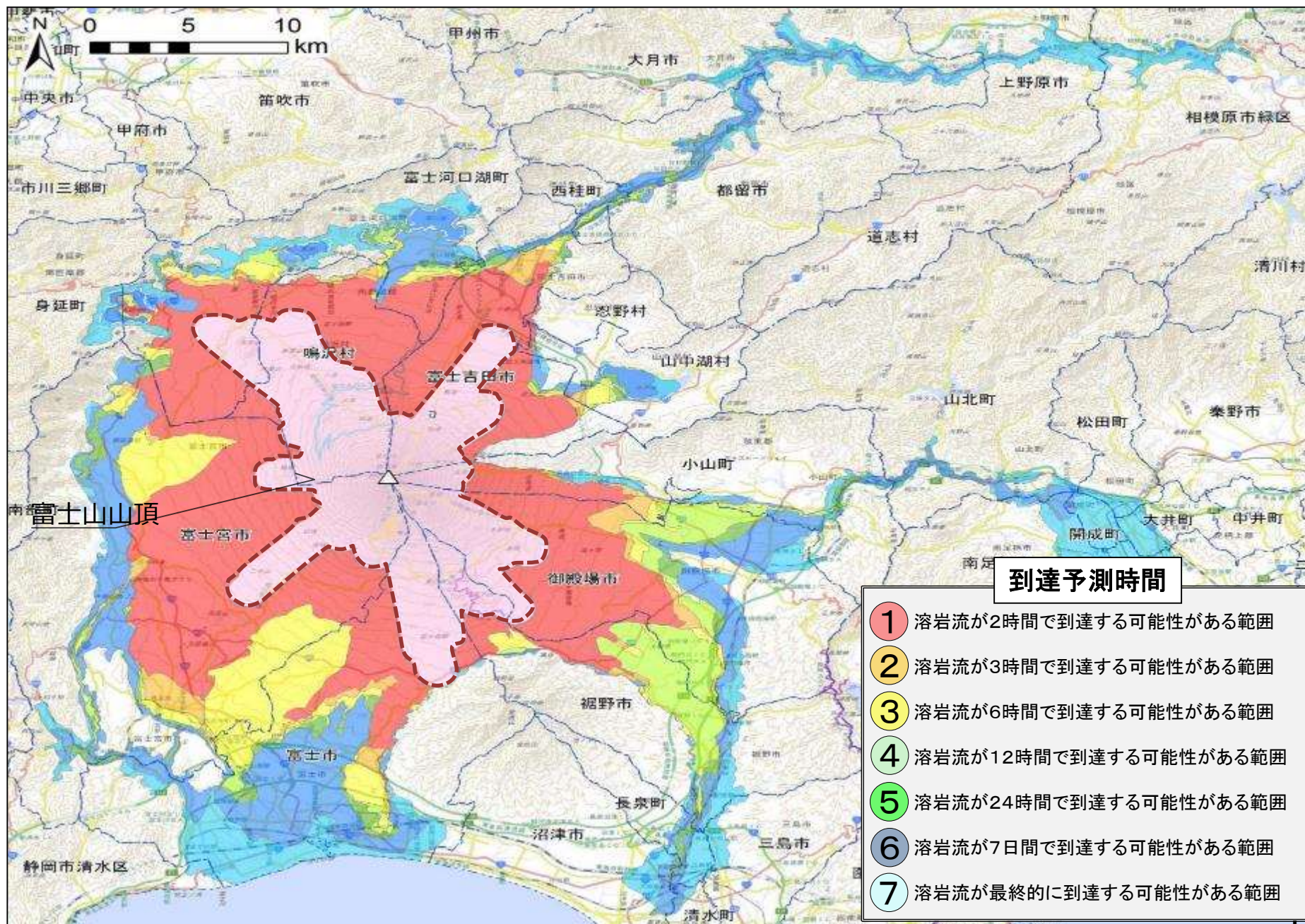


図5 富士山 地震積算回数(1995年6月～2003年3月)

2 富士山ハザードマップの見方



富士山火山ハザードマップ改定のポイント

主要項目	改定の概要
① 考慮対象とする噴火年代	「3, 200年前～現在まで」 →「5, 600年前～現在まで」期間を拡大（180回噴火）
② 想定火口範囲（点）	最新の調査結果に基づき、想定火口（計算開始点） 大中小合計44ヶ所→252ヶ所に想定火口点を増加
③ 地形メッシュサイズ	より詳細な地形データの反映のため、コンピュータを駆使 分析単位：200mメッシュ→20mメッシュを採用
④ 溶岩流の量	大規模噴火の溶岩噴出量を7億m ³ →13億m ³ に変更
⑤ 降灰可能性マップ	平成16年度版ハザードマップの再掲
∴ 影響関係市町村数	2県15市町村⇒3県27市町村に拡大



∴ 最新の知見・技術に基づくシミュレーションにより、該当エリアにおいて

①「溶岩流が流れて来る地域」と「流れて来ない地域」

②「到達時間が早まり、量が増加、広範囲に影響」の明確化

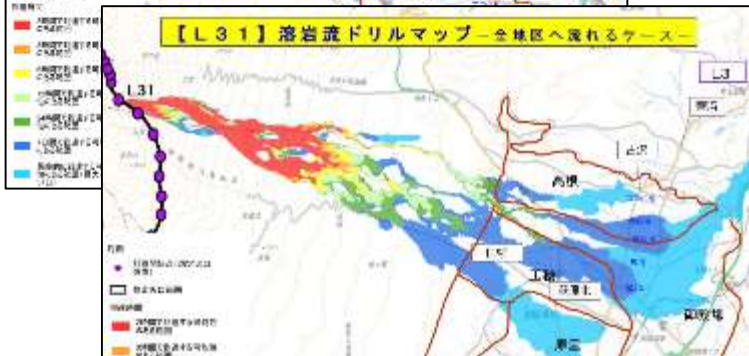
ハザードマップの種類

①ドリルマップ

(3) 溶岩流ドリルマップー高根地区へ流れるケースー



【L31】溶岩流ドリルマップー全地区へ流れるケースー



【M42】溶岩流ドリルマップー印野・原里・富士岡地区へ流れるケースー

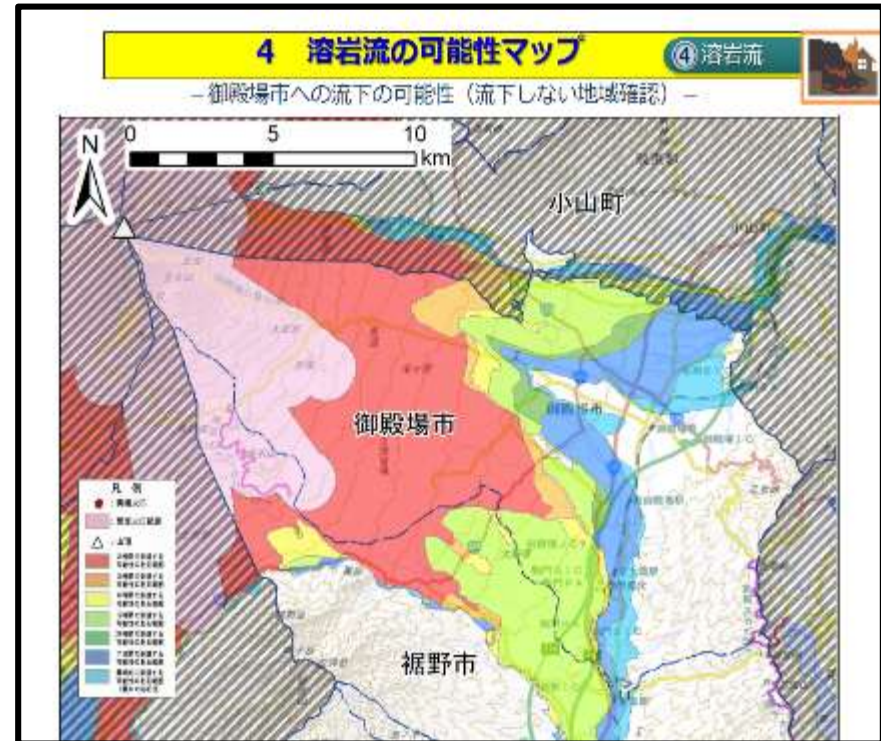


・ 条件を設定して、**大中小38（/252）ヶ所の個々の火口から溶岩流を流出させた場合の到達範囲と時間を示した噴火想定地図**

②可能性マップ

4 溶岩流の可能性マップ

ー御殿場市への流下の可能性（流下しない地域確認）ー



・ **大・中・小規模全てのドリルマップを重ね合わせて、噴火規模に関わらず、同一の時間区分内で最も遠くまで到達している地点を結んだ包絡線から作成したもの（可能性としてどこまで到達するか）**

「御殿場市富士山火山防災マップ」の概要

【趣旨】

静岡・山梨・神奈川3県、周辺市町村、火山専門家など67の機関等で構成される富士山火山防災対策協議会が17年ぶりに改定・公表した「富士山噴火の被害を想定したハザードマップ(危険予測地図)」(R3. 3. 26)に基づき、**市独自に「御殿場市富士山火山防災マップ」を作成(5万部)して市内全世帯に配布し、市民の富士山噴火への備えの参考**としていただくもの(令和4年2月23日『富士山の日』に配布)

【協議会67機関】=県市町村+地方気象台、地方整備局、火山専門家、自衛隊など

・県: 静岡県、山梨県、神奈川県

・市町村: 14市10町3村 計27市町村(〇〇新規追加市町)

①静岡県: 静岡市、沼津市、三島市、富士宮市、富士市、御殿場市、裾野市、清水町、長泉町、小山町(10)

②山梨県: 富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、身延町、西桂町、富士河口湖町、忍野村、山中湖村、鳴沢村(10)

③神奈川県: 相模原市、小田原市、南足柄市、大井町、松田町、山北町、開成町(7)

避難対象エリア

第1次

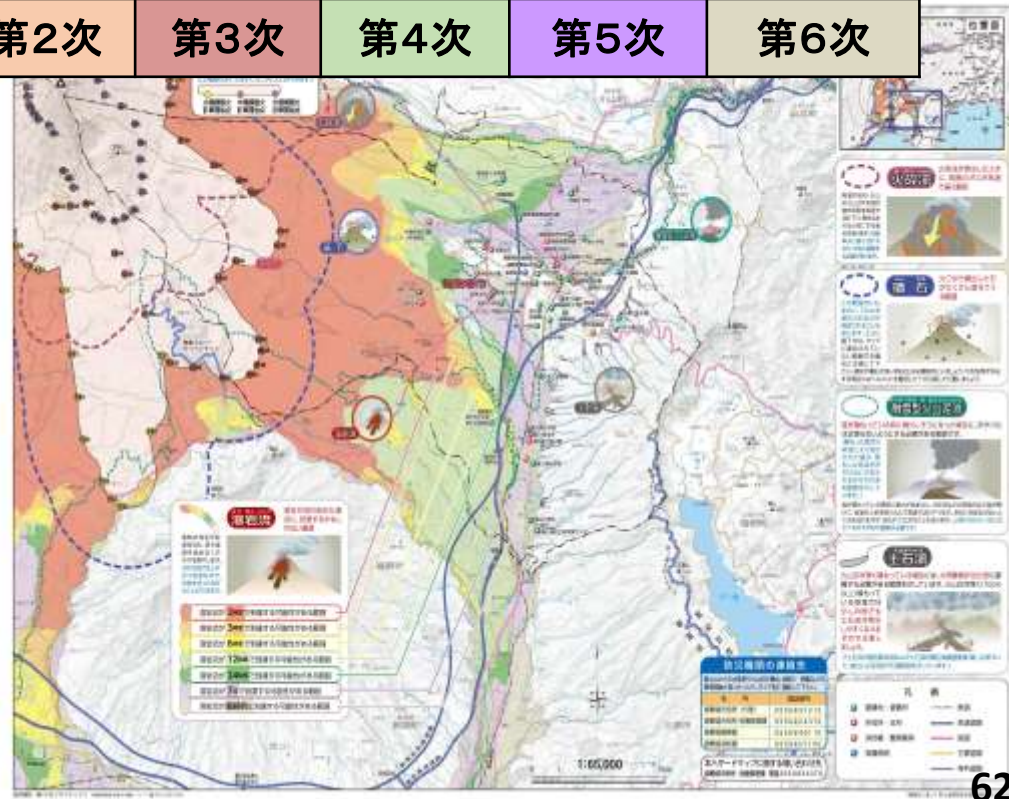
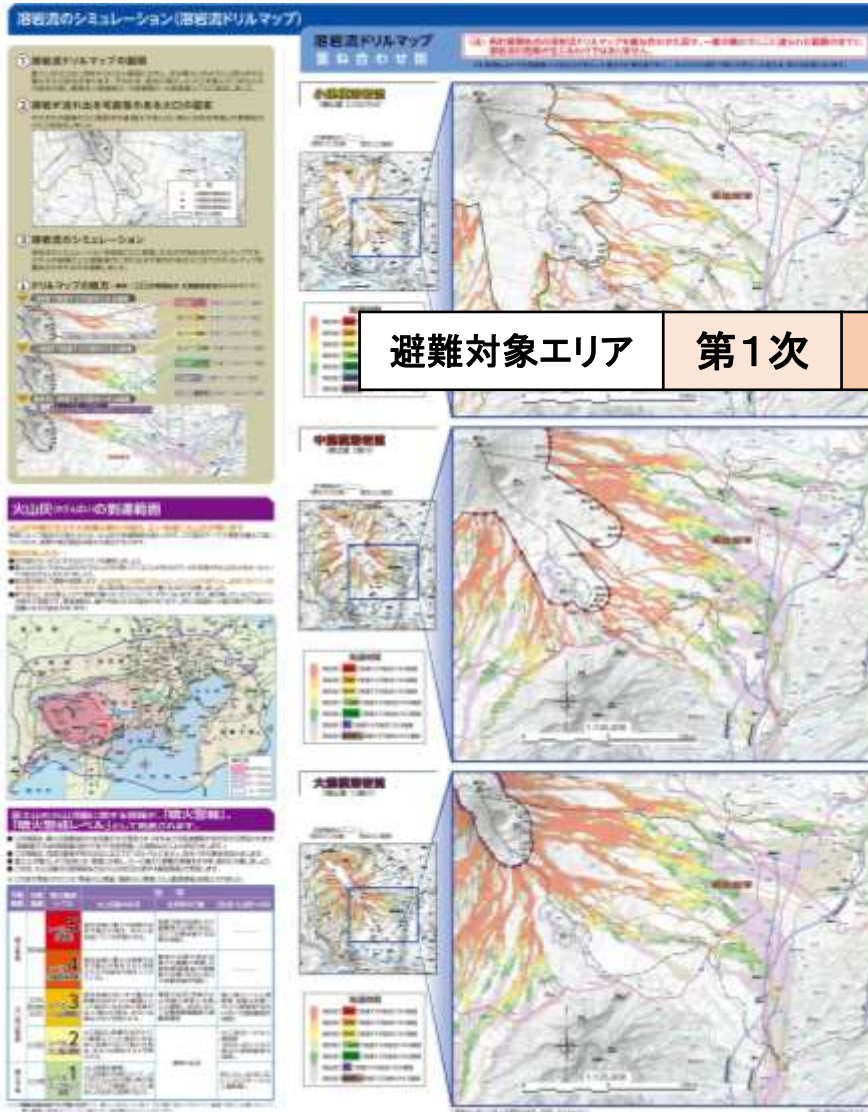
第2次

第3次

第4次

第5次

第6次



溶岩流の流下パターンを区分した想定火口範囲

御殿場市富士山火山防災マップ

可能性
マップ

溶岩流・噴石・火砕流・融雪型火山泥流

この図は仮に富士山が噴火した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと考えられる範囲を全て重ねて描いたものです。全ての方角に同時に発生することを意味するものではありません。また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。

火口ができる可能性の高い範囲

(この範囲の全てではなく、どこかに火口ができます。)

小規模噴火
計算開始点

中規模噴火
計算開始点

大規模噴火
計算開始点

避難対象エリア

第3次

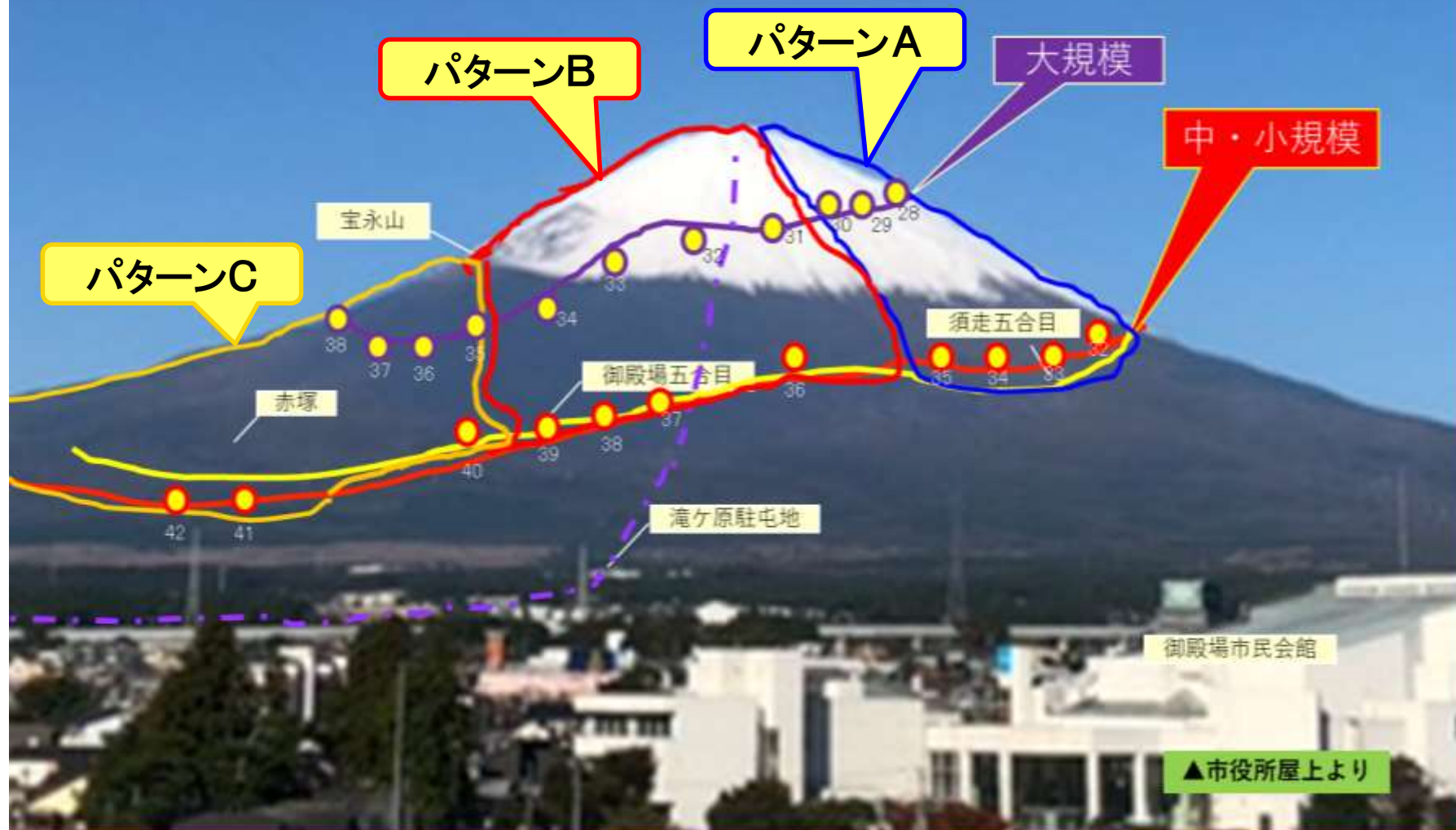
第4次

第5次

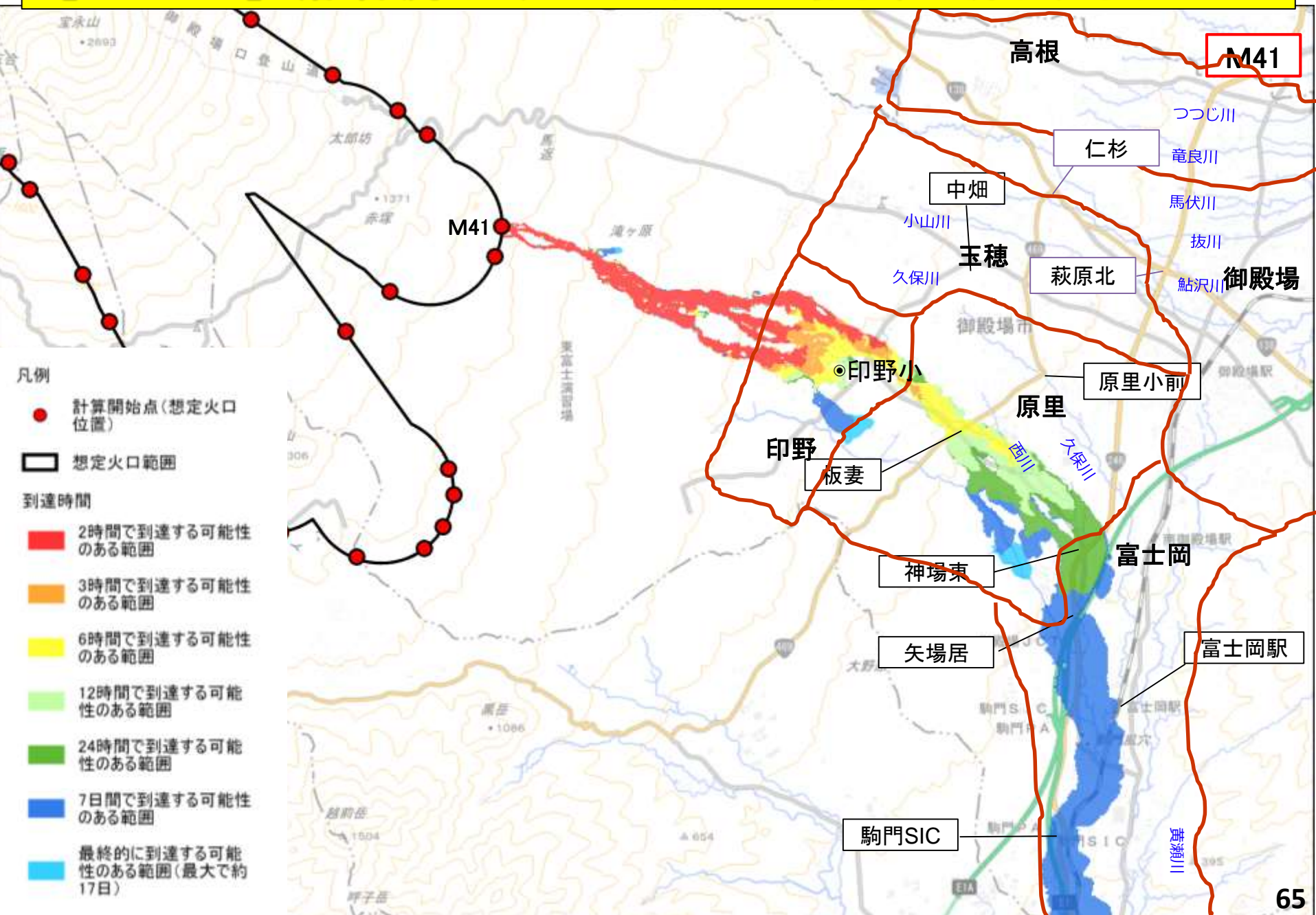
第6次



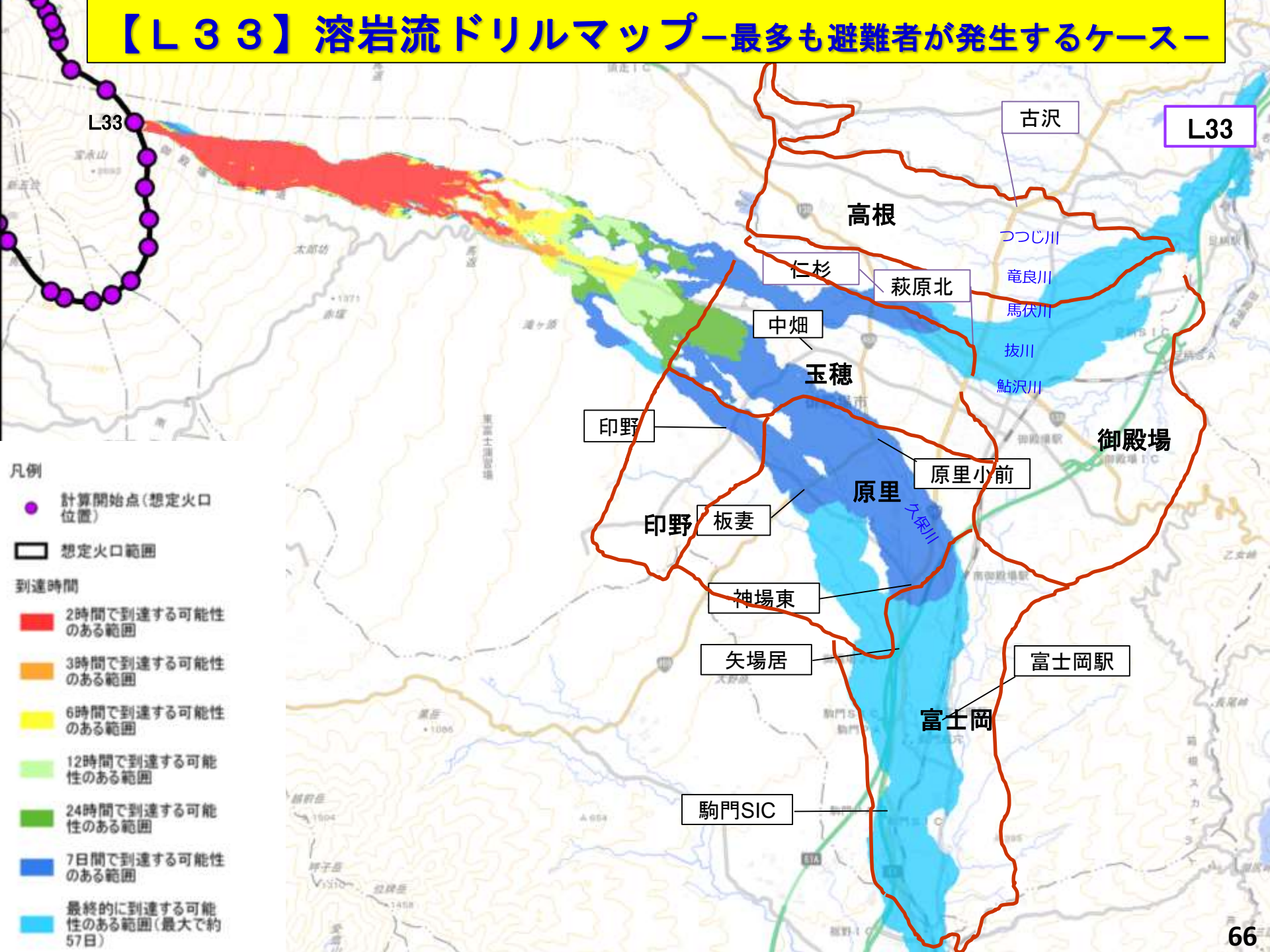
溶岩流の流下パターンを区分した想定火口範囲



【M41】溶岩流ドリルマップー最も早く流下するケースー



【L33】溶岩流ドリルマップー最多も避難者が発生するケースー



分水嶺が及ぼす溶岩流への影響は？

分水嶺



【分水点：桜公園バス停（643.5）】



分水嶺による「溶岩流パターン区分」

	L (28～38)	M (32～46)	S (35～47)	本数計
分水嶺の北 (パターンA)	3 (28,29,30)	3 (32,33,35)	2 (35,36)	8(3)
分水嶺の北・南 に分波 (パターンB)	4 (31,32,33,34)	5 (34,36,37,38,39)	2 (38,39)	11(1)
分水嶺の南 (パターンC)	4 (35,36,37,38)	7 (40,41,42,43,44 45,46)	8 (40,41,42,43 44,45,46,47)	19(0)
規模別本数計	11	15	12	38(4)/252

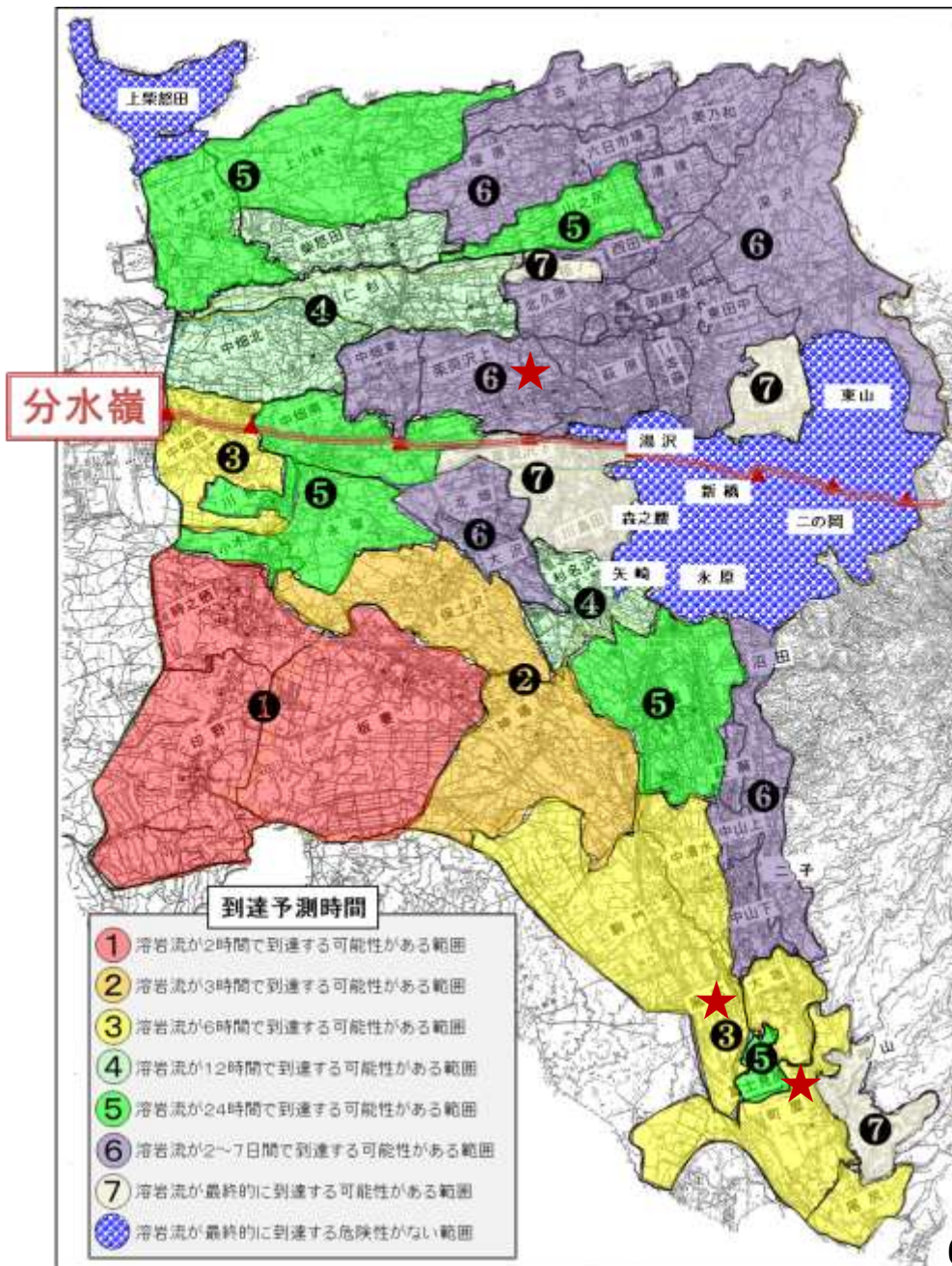
3 市内溶岩流到達地域・到達予測時間

大中小規模に拘わらず
全く溶岩流が流下しない地域

7区／59区
東山、二の岡、新橋、
湯沢、森之腰、永原、矢崎

到達予測時間

- ① 溶岩流が2時間で到達する可能性がある範囲
- ② 溶岩流が3時間で到達する可能性がある範囲
- ③ 溶岩流が6時間で到達する可能性がある範囲
- ④ 溶岩流が12時間で到達する可能性がある範囲
- ⑤ 溶岩流が24時間で到達する可能性がある範囲
- ⑥ 溶岩流が7日間で到達する可能性がある範囲
- ⑦ 溶岩流が最終的に到達する可能性がある範囲
- ⑧ 溶岩流が最終的に到達する危険性がない範囲



富士山噴火溶岩流59区エリア区分表

避難対象エリア	時間	分水嶺の南側(30) (ライン2)	分水嶺(5) (県道23号)	分水嶺の北側(24) (ライン1)
第3次	2	時之栖、印野、板妻		
	3	保土沢、神場		
第4次	6	小木原、駒門、中清水、 風穴、大坂、町屋、尾尻	中畑西	
	12	杉名沢		柴怒田、仁杉、中畑北
	24	川柳、永塚、竈、富士見原	中畑南	水土野、上小林、山之尻 中畑東
第5次	2～7 日	北畑、大沢 萩蕪、中山上、中山下 沼田、二子		塚原、古沢、六日市場、清後、 美乃和、北久原、西田中、萩原、 二枚橋、御殿場、東田中、深沢、 茱萸沢上、栢ノ木
第6次	最終	川島田 神山、高内	茱萸沢下	鮎沢
到達の 危険性なし		森之腰、永原、矢崎	新橋 二の岡	湯沢、東山

※1 区割りについては、溶岩流の流下が少しでも区に含まれる、より早い流下時間に設定

※2 流下可能性外:7区(東山、二の岡、新橋、湯沢、森之腰、永原、矢崎)

溶岩流・融雪型火山泥流・降灰等の影響(高根地区)

一連	地 区	区	溶岩流	L		M		S		融雪型		降 灰
			計	数	番 号	数	番 号	数	番 号	数	番 号	有無
51	高 根	塚 原	5	3	②⑨③①	2	③⑤③⑥	0	0	1	①⑧	○
52		六日市場	4	3	②⑨③①	1	③⑤	0	0	1	①⑧	○
53		美乃和	5	4	③①③②③③	1	③⑤	0	0	1	①⑧	○
54		清 後	6	5	②⑨③①③②③③	1	③⑤	0	0	2	①⑦①⑧	○
55		山之尻	5	3	②⑨③①	2	③⑤③⑥	0	0	2	①⑦①⑧	○
56		柴怒田	6	4	②⑨③①③②	2	③⑤③⑥	0	0	2	①⑦①⑧	○
57		上小林	8	4	②⑧②⑨③①	4	③③③④③⑤③⑥	0	0	0	0	○
58		水土野	7	4	②⑨③①③②	3	③④③⑤③⑥	0	0	0	0	○
59		古 沢	5	3	②⑧②⑨③①	2	③③③④	0	0	0	0	○

高根地区溶岩流最速到達・最大影響範囲ドリルマップ

	ドリルマップ数	最速到達	最大範囲	一時集結地
①塚 原	5	M35	L29	高根中
②六日市場	4	M35	L29	高根小
③美乃和	5	M35	L33	高根小
④清 後	6	M35	L31	高根小
⑤山之尻	5	M35	M35	高根中
⑥柴怒田	6	M35	L31	市体育館
⑦上小林	8	L30	L31	高根中
⑧水土野	7	M35	L29	市体育館
⑨古 沢	5	L28	L29	高根小

凡例:

第3次
避難対象エリア

第4次
避難対象エリア

第5次
避難対象エリア

第6次
避難対象エリア

(3) 溶岩流ドリルマップー高根・御殿場・玉穂地区へ流れるケースー



(3) 溶岩流ドリルマップー高根・御殿場・玉穂地区へ流れるケースー



L31



古沢

高根

仁杉

玉穗

萩原北

御殿場

原里

印野

富士岡

76

凡例

● 計算開始点(想定火口位置)

□ 想定火口範囲

到達時間

■ 2時間で到達する可能性のある範囲

■ 3時間で到達する可能性のある範囲

■ 6時間で到達する可能性のある範囲

■ 12時間で到達する可能性のある範囲

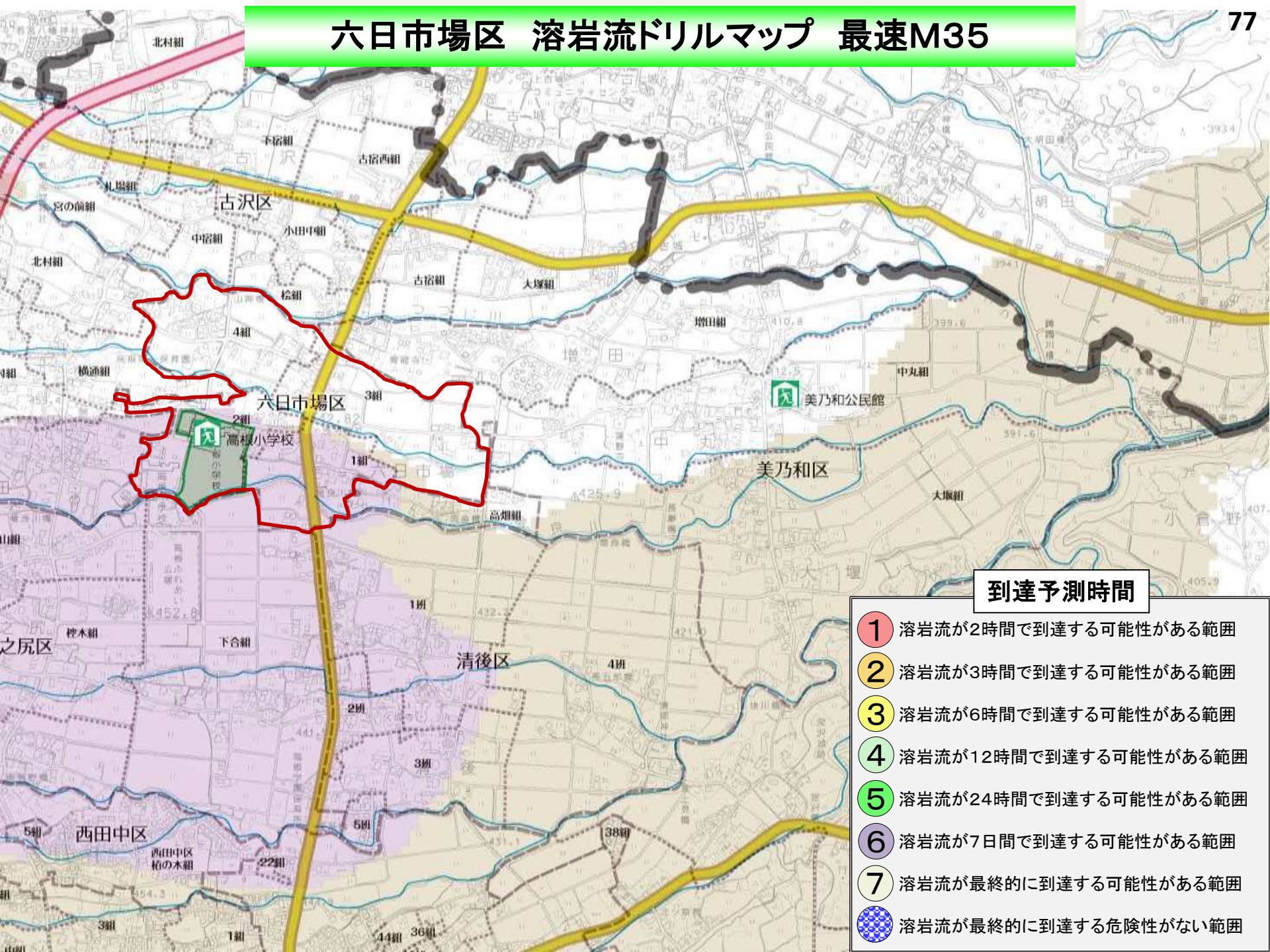
■ 24時間で到達する可能性のある範囲

■ 7日間で到達する可能性のある範囲

■ 最終的に到達する可能性のある範囲(最大で約57日)

六日市場区 溶岩流ドリルマップ 最速M35

77

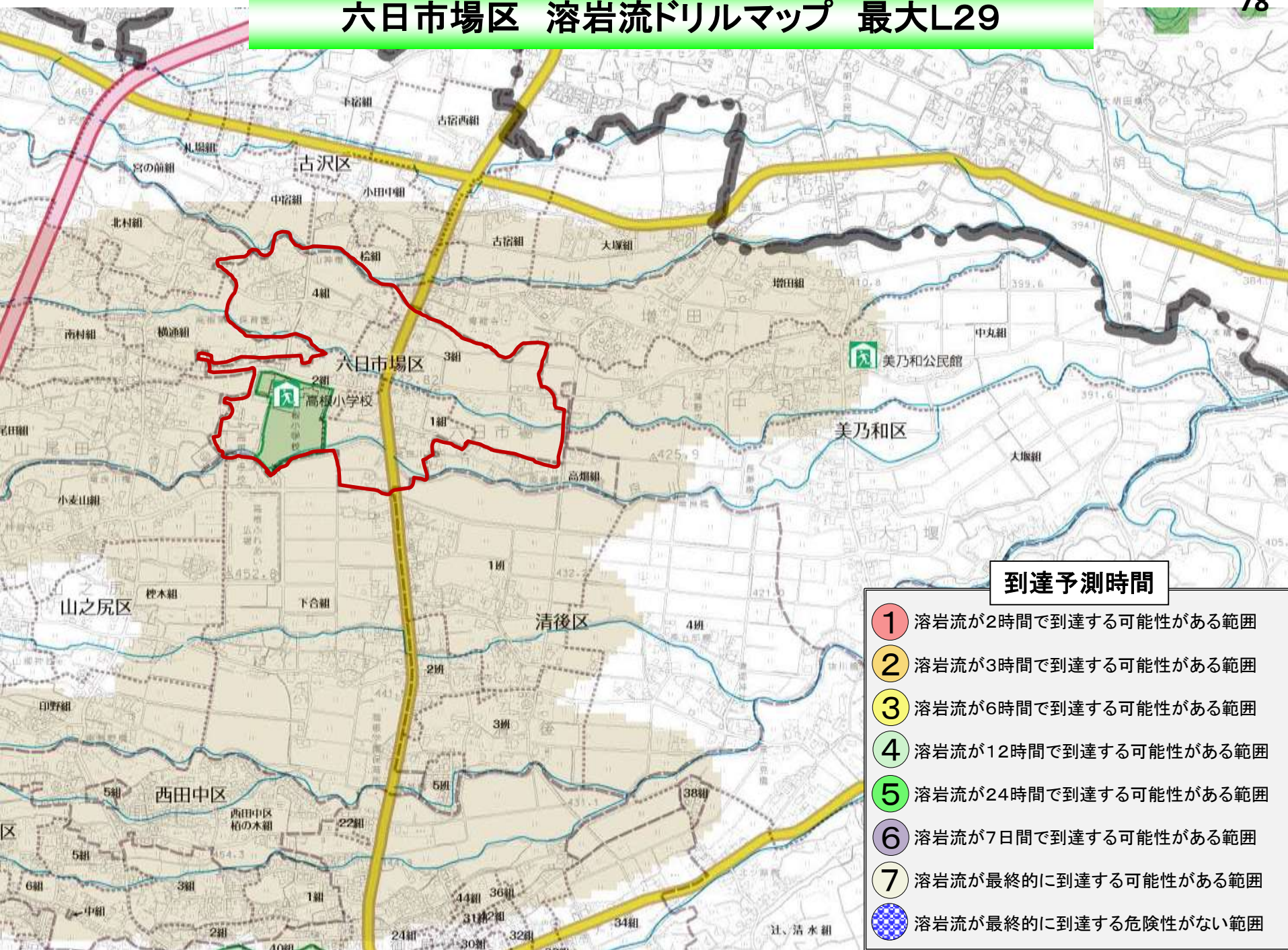


到達予測時間

- 1 溶岩流が2時間で到達する可能性がある範囲
- 2 溶岩流が3時間で到達する可能性がある範囲
- 3 溶岩流が6時間で到達する可能性がある範囲
- 4 溶岩流が12時間で到達する可能性がある範囲
- 5 溶岩流が24時間で到達する可能性がある範囲
- 6 溶岩流が7日間で到達する可能性がある範囲
- 7 溶岩流が最終的に到達する可能性がある範囲
- 溶岩流が最終的に到達する危険性がない範囲

六日市場区 溶岩流ドリルマップ 最大L29

78



富士山火山避難の考え方

富士山噴火年表(宝永噴火)

▲ 富士山の主な噴火(三大噴火)


宝永の大噴火 (1707)

年代	活動種類
781	噴 火
800 ～ 802	延暦噴火
864 ～ 866	貞観噴火
937	噴 火
1033	噴 火
1083	噴 火
1435	噴 火
1511	噴 火
1704	鳴 動
1707	宝永噴火



噴火を描いた古地図(静岡県御殿場市:滝口文夫氏所
(提供:静岡県立中央図書館 歴史文化情報センター)

宝永の大噴火(1707年12月16日)

火山活動情報	<div> <div>火山活動は 静穏</div> <div>平常時と比べ 地震増加</div> <div>地震活動活発 有感地震発生</div> <div>地震活動急増 有感地震多発 傾斜変動増大</div> <div>噴火(噴煙) 5,000m</div> <div>噴火発生 溶岩流流下</div> </div> <div> <div>10/28</div> <div>11/17</div> <div>12/3</div> <div>12/14</div> <div>  </div> <div>12/16</div> </div>					
火山防災情報の発表状況	<div> <div>紀伊半島沖を震源とする大地震発生</div> <div>解説情報(臨時)</div> <div>噴火警報(レベル3)</div> <div>解説情報</div> <div>解説資料</div> <div>噴火警報(レベル4)</div> <div>噴火警報(レベル5)</div> <div>解説情報</div> <div>解説資料</div> </div> <div>降灰予報(定時)</div>					
警戒範囲	<div> <div>第1次避難対象エリア (想定火口範囲)</div> <div>第2次避難対象エリア (火砕流・火砕サージ・大きな噴石が到達する可能性がある範囲)</div> <div>第3次避難対象エリアの 避難行動要支援者 避難</div> <div>第3次避難対象エリア (溶岩流3時間以内)</div> <div>第4次避難対象エリア (溶岩流24時間以内)</div> </div>					

噴火警戒レベルにおける火山活動と対応

種別	名 称	対象範囲	噴火警戒レベルとキーワード		説明			
					火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応	
特別 警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域 及び それより 火口側	レベル 5	避難		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要（状況に応じて対象地域や方法を判断）。	
			レベル 4	高齢者等 避難		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まってきている）。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要（状況に応じて対象地域を判断）。	
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から 居住地域 近くまで	レベル 3	入山規制		居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活（今後の火山活動の推移に注意。入山規制）。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等（状況に応じて規制範囲を判断）。
		火口周辺	レベル 2	火口周辺 規制		火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。（状況に応じて火山活動に関する情報収集、避難手順の確認、防災訓練への参加等）。	火口周辺への立入規制等（状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断）。
予報	噴火予報	火口内等	レベル 1	活火山で あること に留意		火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。		特になし（状況に応じて火口内への立入規制等）。

富士山火山における避難の全体イメージ

※それぞれの地域特性を考慮し必要に応じて調整



噴火警戒レベル別の対応

⇒ 御殿場市の対象エリア: 第3～6次

避難対象エリア	第1次	第2次	第3次	第4次	第5次	第6次
対象とする範囲	想定火口範囲	火砕流・火砕サージ、大きな噴石が到達する可能性のある範囲、融雪型火山泥流の一部	溶岩流が3時間以内に到達する可能性がある範囲(2～3時間)	溶岩流が24時間以内に到達する可能性がある範囲(6・12・24時間)	溶岩流が7日以内に到達する可能性のある範囲(2～7日)	溶岩流が最終的に到達する可能性がある範囲(最長57日)
噴火警戒レベル						

レベル1	
解説情報【臨時】	住民
	観光客
	分散避難
レベル3	
	住民
	観光客
	分散避難
レベル4	
レベル5	
噴火直後	
噴火状況判明後	



溶岩流の流下に伴う避難対象エリア別避難等開始基準（いつ）

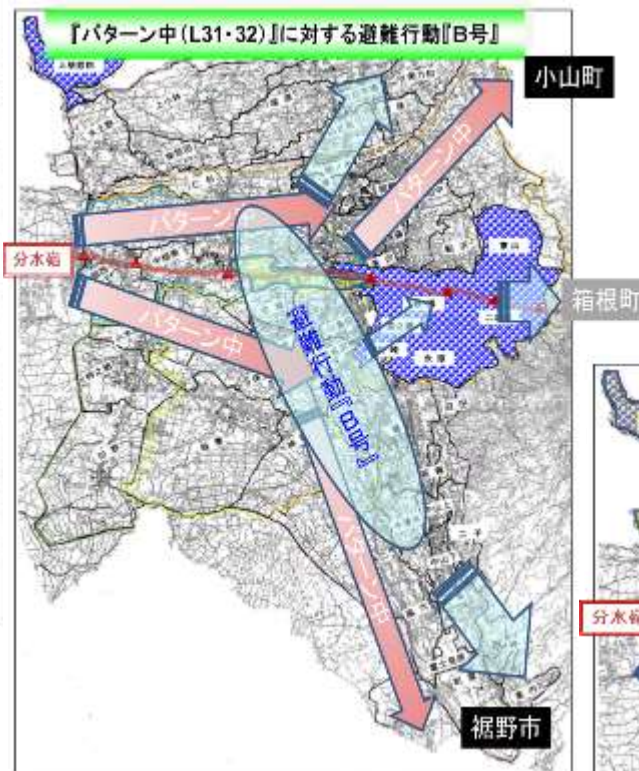
避難対象 エリア	第 1 次	第 2 次	第 3 次		第 4 次		第 5 次		第 6 次		
避難者の 属性	観光客等 (登山者を含む。)	観光客等	要支 援者	一般 市民	要支 援者	一般 市民	要支 援者	一般 市民	要支 援者	一般 市民	
レベル 1	平 時 (活火山であることに留意)										
解説情報 (臨時)	帰 宅 (登山者は下山)	帰 宅	情報収集								
レベル 3			避難 準備				情報収集				
			園児・児童・生徒の引き渡し								
レベル 4			避難 開始	避難準備				情報収集			
レベル 5				避難準備				情報 収集	避難 準備	情報 収集	
噴火直後				避難開始 (対象パターンで 必要な範囲)			避難準備				
噴火状況 判明後							避難開始 (ハザードマップで必要な範囲)				

溶岩流の流下パターンによる避難の考え方(案)

『パターン北』に対する避難行動『A号』



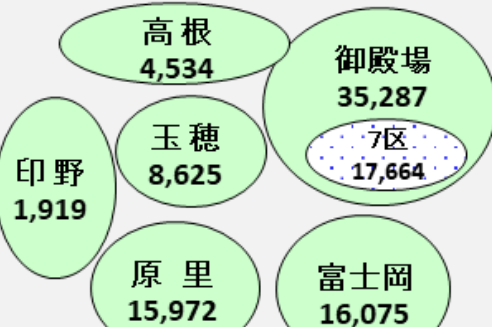
『パターン中 (L31・32)』に対する避難行動『B号』



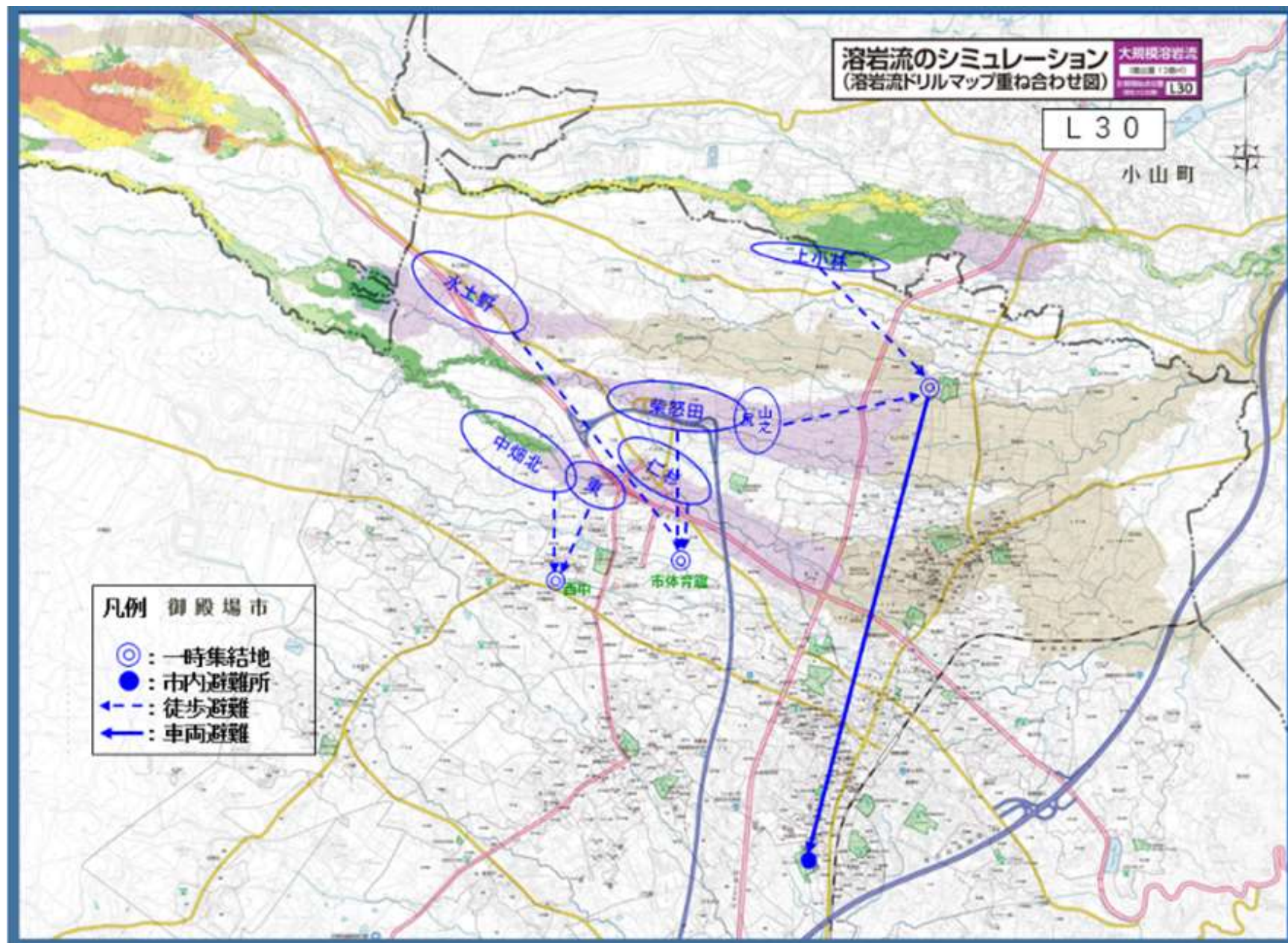
『パターン南』に対する避難行動『C号』



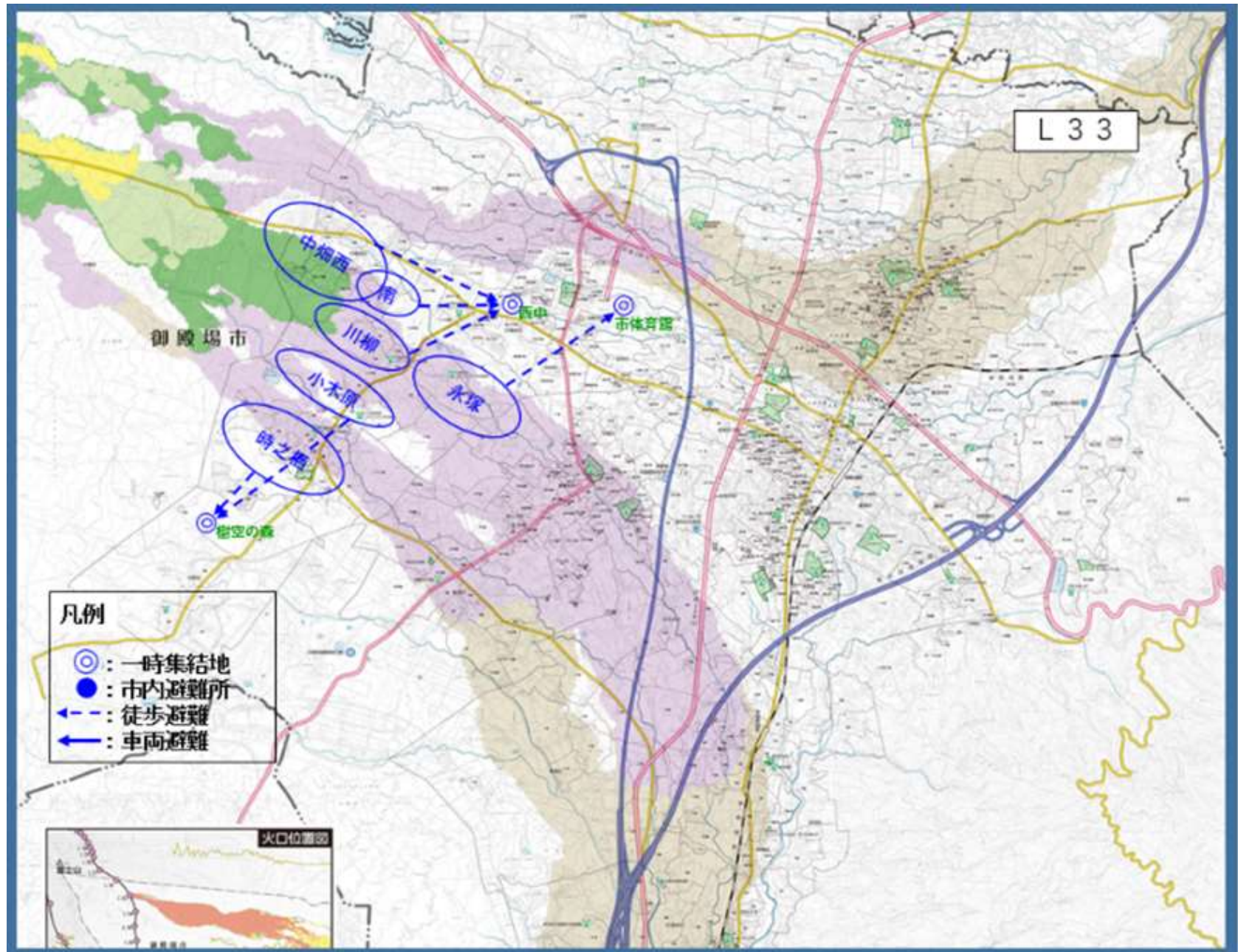
御殿場市人口(R5.5.1)



流下パターンA 第4次エリア避難対象区及び避難先(一例)



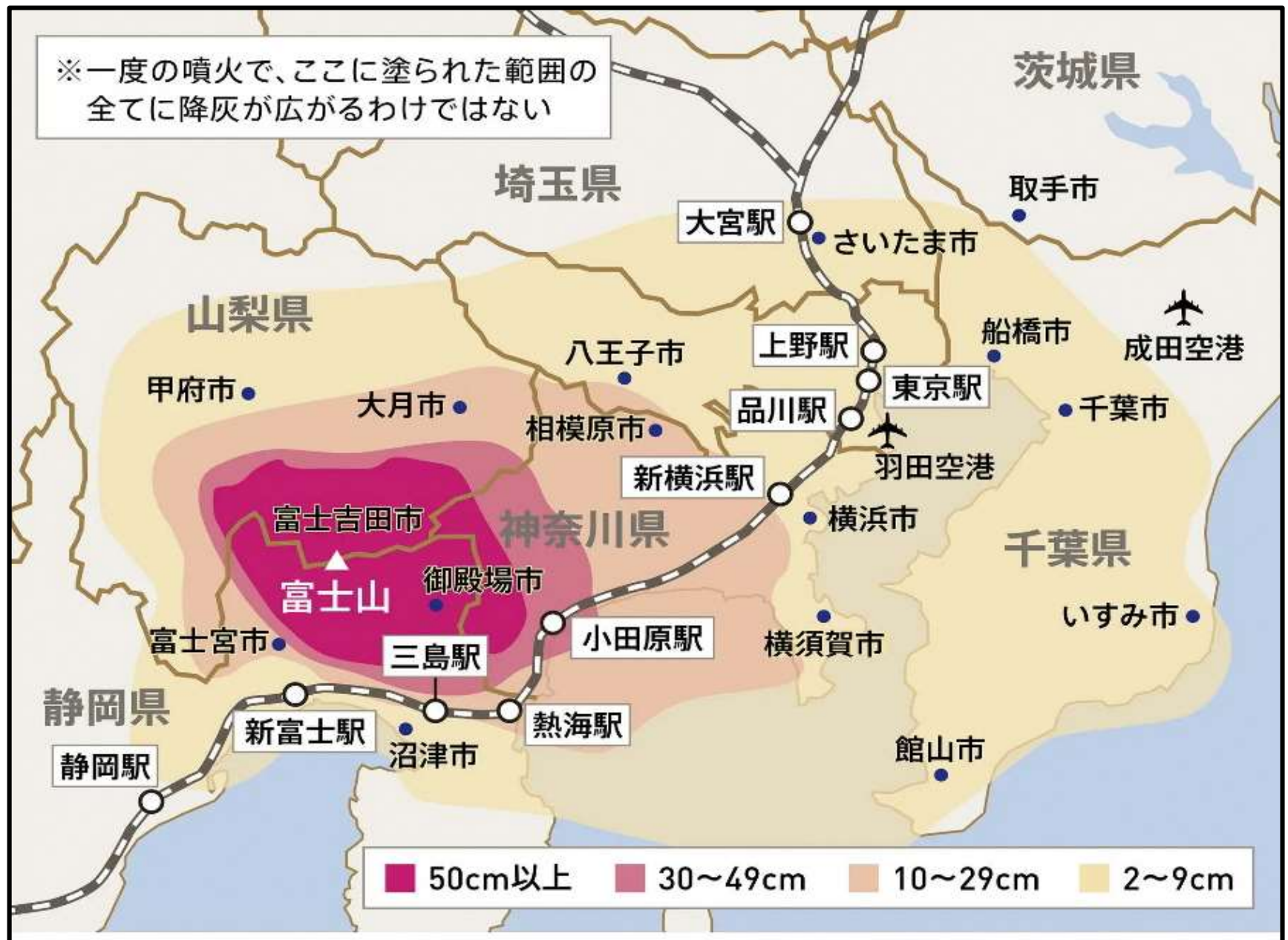
流下パターンB 第4次エリア避難対象区及び避難先(一例)



ミュレーション
マップ重ね合わせ図)



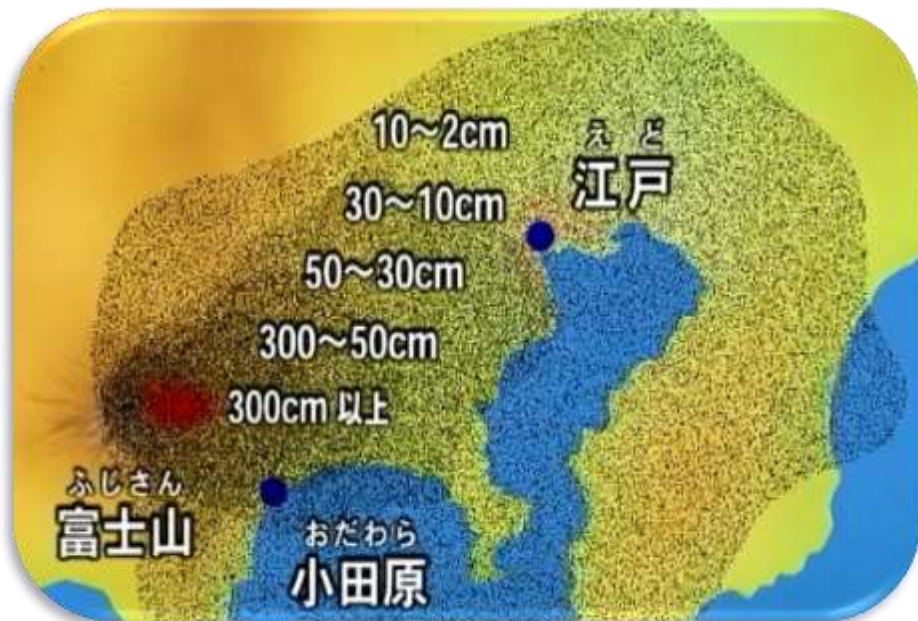
降灰の可能性のある範囲



御厨地方の降灰量の分布



御厨地方の降灰量の分布(1丈:303cm、1尺:30.3cm、1寸:3.03cm)



	村名	降砂量
中筋	柴怒田村	6~7尺
	上小林村	5尺
	山の尻村	5尺
	山尾田村	5尺
	清後村	5尺
	六日市場村	5尺
	大堰村	5尺
	中丸村	5尺
	増田村	不明
	棚頭村	4尺4寸
坂下・北筋	大御神村	5尺
	上野村	4尺3寸
	上野新田	4尺1寸

	村名	降砂量
坂下・北筋	中日向村	4尺5寸
	用沢村	4尺5寸
	吉久保村	3尺5寸
	阿多野新田	3尺6寸
	湯船村	3尺6寸
	柳島村	3尺6寸
	竹之下村	5~6尺
	菅沼村	5尺
	所領村	4尺6寸
	藤曲村	5尺
	中島村	5尺6寸
	生土村	5尺6寸
	小山村	5尺

	村名	降砂量
原方	茱萸沢村	2尺
	西田中村	2尺
	川嶋田村	6~7寸
	杉名沢村	2尺
	保土沢新田	不明
	川柳新田	4~5寸
	神場村	3~4寸
	永塚村	3~4寸
	印野村	5~6寸
	板妻村	4~5寸
	中畑村	7尺
	今里村	砂少
	下和田村	砂少
	須山村	砂少
	(十里木新田)	砂降らず

	村名	降砂量
南筋	御殿場村	不明
	深沢村	2尺5~6寸
	東田中村	2尺5~6寸
	東山新田	2尺5~6寸
	新橋村	1尺8~9寸
	二枚橋村	2尺
	萩原村	6~7寸
	北久原村	3尺
	仁杉村	7尺
	水土野新田	7尺
	須走村	1丈

	村名	降砂量
八ヶ郷	竈新田	6~7寸
	萩蕪村	4~5寸
	沼田村	4寸
	中清水村	不明
	中山村	3寸
	大坂村	2寸
	駒門新田	3寸
	二子村	3寸

	村名	降砂量
下郷	下土狩村	砂 少
	上土狩村	砂 少
	伊豆嶋田村	砂 少
	佐野村	砂 少
	公文名村	砂 少
	麦塚村	砂 少
	茶畑村	砂 少
	石脇村	砂 少
	岩波村	砂 少
	神山村	砂 少

宝永大噴火の悲劇を乗り越えて

⑤砂除川浚奉行としての手腕を発揮

④救世主『伊奈半左衛門忠順』現る！

③追い打ちをかけた『亡所』のお達し



⑥飢餓に苦しむ村民のため処罰覚悟で



★80年の時を経て見事に復興

⑦幕府貯蔵米5千俵を救済のため配る！



②飢えに苦しむ村民たち

⑧火山灰と耕作土の『天地返し』を繰り返し



①降灰の覆い尽くされた御厨地方



噴火(降灰等)に伴う人体等への影響



噴火に際し、砂除川浚（すなよけかわざらい）奉行として災害復興の最高責任者に命ぜられる。

飢餓に苦しむ農民を助けるため復興雇用を生み、生活の安定化を図り農地を回復させるため
土壌改良にも取り組んだ。

餓死寸前の村民を救済するため、米倉を開き1万3千石を分配した無断行為が発覚して職を
罷免、切腹を命じられ享年40才で世を去る。その遺徳を偲び、須走に伊奈神社が建立される。



ただのぶ

伊奈半左衛門忠順の偉業

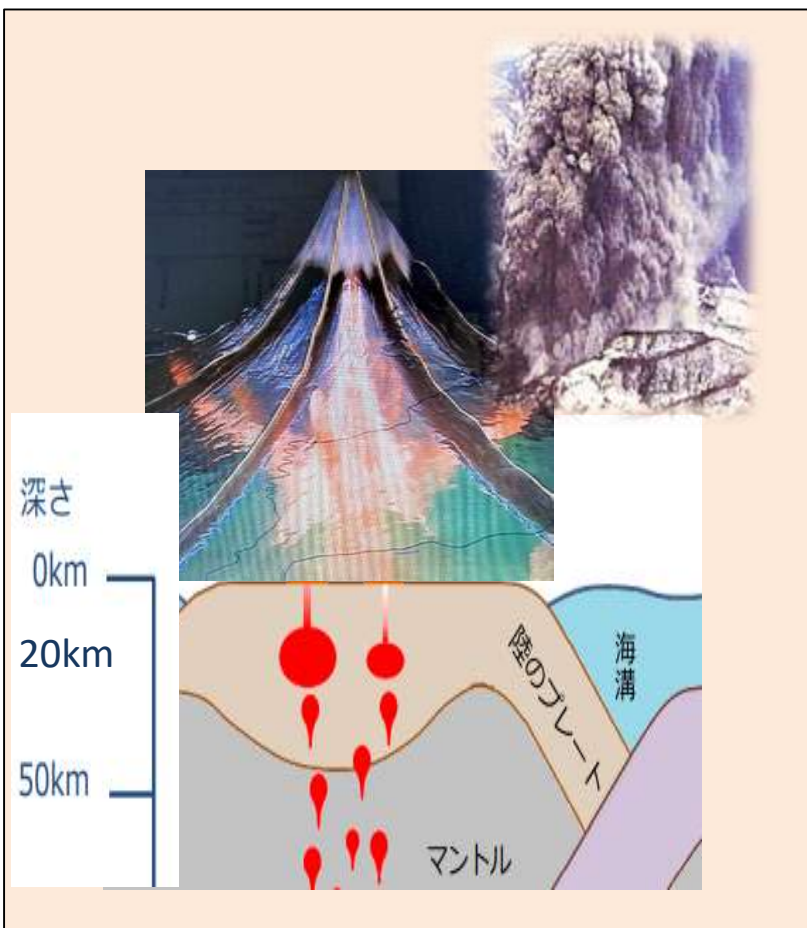
昭和 57年 銅像建立

昭和 63年 現在の社殿完成



数字で抑える『富士山ハザードマップ』

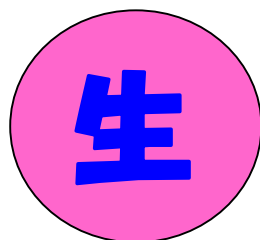
- ① 日本一の高さ(3,776m)を誇る富士山は、地下15km~20km付近に「マグマ溜り」あり
- ② 富士山の噴火は過去(約5,600年前~)に175回(大規模7回)(4%)、中・小規模168回(96%)の噴火あり
⇒ 大規模地震は、864年~866年の貞観噴火、1707年12月16日の宝永噴火(宝永南海地震の49日後噴火)
- ③ 富士山には比較的大きな尾根(17本)により、溶岩流の流れを17ラインに区分(山梨・静岡県境起点に時計回り)
⇒ 富士山の噴火の特徴は「割れ目噴火」、17のいずれかのラインから噴火(小山町~御殿場市ライン1・2)
- ④ 噴火口の数、現行(H16版)の44か所から、大中小合計252ヶ所(大(L):69、中(M):91、小(S):92)に変更
⇒ 「可能性マップ」の作成により、現在2県7市4町3村から、3県14市10町3村の広範囲に影響を及ぼす。



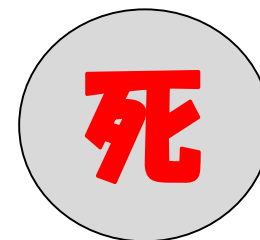
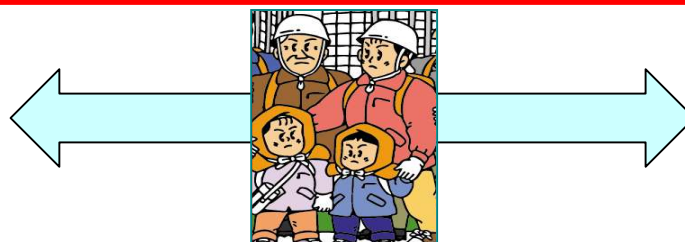
- ⑤ 溶岩流の噴出量は、大規模噴火で現行7億 m^3 から13億 m^3 へ(13億 $\text{m}^3 = 10\text{km} \times 10\text{km} \times 13\text{m}$)
⇒ 須走浅間神社・御殿場市役所・岩波駅・富士サファリの囲い
- ⑥ 地形分析メッシュサイズの見直し(微地形・起伏の詳細)
⇒ コンピュータ技術の進歩により、200mから20mメッシュ
∴ 想定火口範囲を拡大、噴出量(約2倍)に変更および地形データ精緻化に伴い、◎溶岩流の到達可能性範囲が拡大するとともに、◎市街地などへの溶岩流の到達時間早まる。
- ⑦ 融雪型火山泥流(降雪が噴火の熱で一気に溶け、土や砂などを巻き込んで流れる現象)
⇒ 富士山年間平均降雪量(50cm)が500°Cの熱で融雪した場合に、御殿場市役所には約13分で泥流が流下(水深20cm)
- ⑧ 噴石影響範囲は、大規模噴火想定火口から4Km、中小2km
- ⑨ 降灰の範囲は、宝永噴火(7億 m^3)、過去45年間の富士山上空1万mの風向風速解析データを月ごとシミュレーションした結果、降灰量範囲を50cm(30%木造家屋が全壊)、30cm(降水時木造家屋全壊)、10cm範囲(降雨時に土石流発生)に区分
- ⑩ 富士山火山活動の観測・監視体制は、富士山周辺の観測施設を利用し、24時間体制で監視カメラ13ヶ所、地震計30ヶ所、その他、傾斜計、ひずみ計、風振計などを設置

究極の富士山噴火への対応 5段活用

- 1 「避ける」－溶岩流の流れるエリアは、避ける！
- 2 「逃げる」－溶岩流が来たら、逃げる！
- 3 「祈る」－富士山・浅間神社に、祈る！
- 4 「耐える」－降灰が来たら、耐える！
- 5 「諦める」－家が溶岩流に埋まったら、諦める！



災害に対する覚悟



防災



【御殿場市HPによる資料入手・防災DX】
『御殿場市富士山火山避難計画の概要』【PDF】
若しくは【PC検索】御殿場市役所杉本嘉章

やれることはすべてやったし、手を抜いたことは一度もありません。
常にやれることをやろうとした自分がいたこと、それに対して準備ができた
ことを誇りに思っています。

資料源:「夢をつかむ イチロー262のメッセージ」より

Q & A